

**【長崎県長与町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	長崎県長与町
担当課名	学校教育課
電話番号	095-801-5681

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	39,936人	部活動数	46部活
公立中学校数	3校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	1,077人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域移行における長与町の現状・課題

【現状】

- ・令和5年度から町立中学校 3校すべての休日の運動部活動を地域スポーツ活動へ移行
- ・地域スポーツ活動の運営は、特定非営利活動法人総合型SC長与スポーツクラブが運営
- ・12種目（卓球、陸上、サッカー、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、硬式テニス、軟式野球、柔道、剣道、弓道）21活動を実施
- ・令和5年度は参加者は351名～544名で、指導者124名（大学生33名を含む）を確保
- ・参加者は種目に関わらず月会費3,000円を受け皿の長与スポーツクラブに支払い参加
- ・活動場所は町立中学校のグラウンド、体育館等の運動施設で実施

【課題】

- ・受け皿基盤強化：持続可能な運営ができる事務局体制の整備
- ・人材確保：指導者の質の向上（資格取得）、指導者が不足する種目の指導者確保
- ・財源確保：月会費だけでは赤字経営となることから、持続可能な財源確保
- ・意識改革：大会中心から楽しみ中心へ、生涯にわたってスポーツに親しむ環境づくり

●長与町立小・中学校の児童・生徒数一覧（令和5年5月1日時点）

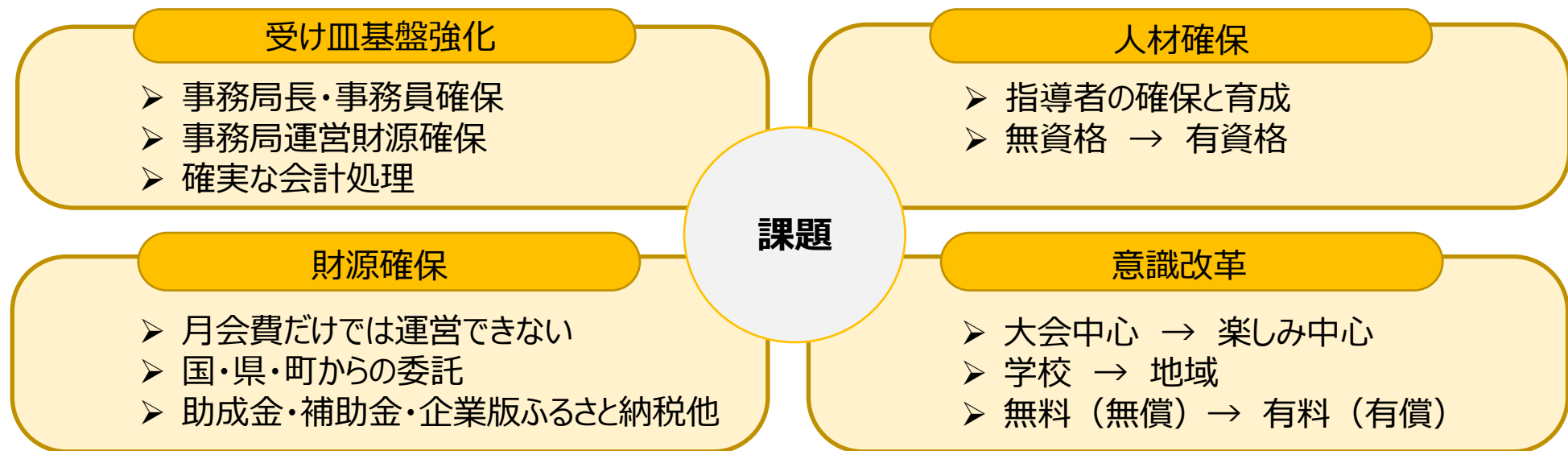
長与町立小・中学校	児童・生徒数	計
長与小学校	846人	2,352人
高田小学校	311人	
洗切小学校	262人	
長与北小学校	296人	
長与南小学校	637人	
長与中学校	538人	1,077人
長与第二中学校	356人	
高田中学校	183人	

1. 自治体の基本情報

令和3年度、令和4年度の実践研究等、この取組に着手する中で、大小様々な課題に直面

- 受け皿は必須。しかし、これまでの運営基盤では弱い。
- 指導者は必要。しかし、数も質（有資格）も十分ではない。
- 月会費は家庭の経済格差に配慮し、廉価に設定。しかし、運営には相応のお金が必要。
- 部活動から地域スポーツ活動への意識改革が必要。しかし、大人は変わりにくい。

地域連携・地域移行における長与町の現状・課題



令和5年度の実証事業では、上記課題に対して、教育委員会、長与SC、学校の関係機関が連携して取組を推進

- 「事務局体制、受け皿の基盤強化」に向けた取組の推進
- 「指導者確保、指導者の質向上」に向けた取組の推進
- 「財源確保」に向けた取組の推進
- 「楽しみ中心、生涯スポーツ」に向けた取組の推進

1. 自治体の基本情報

運動部活動から地域スポーツ活動への段階的な移行

種目	運動部活動			地域スポーツ活動			
	長与中	第二中	高田中	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
卓球	男女	男女	男女	◆融合教室	●7月～実践研究※		4月から休日の12種目を地域スポーツ活動として実施
バスケット	男女	男女	男女			●6月～実践研究	
バレー	男女	女				●8月～男、12月～女	
バドミントン	男女	男女	男女			●R5.3月～男女	
陸上	○	○	○			●10月～合同練習	
サッカー	○	○	○				
軟式野球	○	○	○				
ソフトテニス	男女	男女	男女			●11月～合同練習	
硬式テニス		○	○			●12月～合同練習	
柔道	○						
剣道	○	○					
弓道	○						
ラグビー	○					○町クラブ	












※対象は長与中学校

1. 自治体の基本情報

長与町地域スポーツ活動の種目・活動・参加者・指導者数

種目数	活動数	参加者数	指導者数	(内 兼職兼業)	(内 大学生)
12	21	350~550	124	(20)	(33)

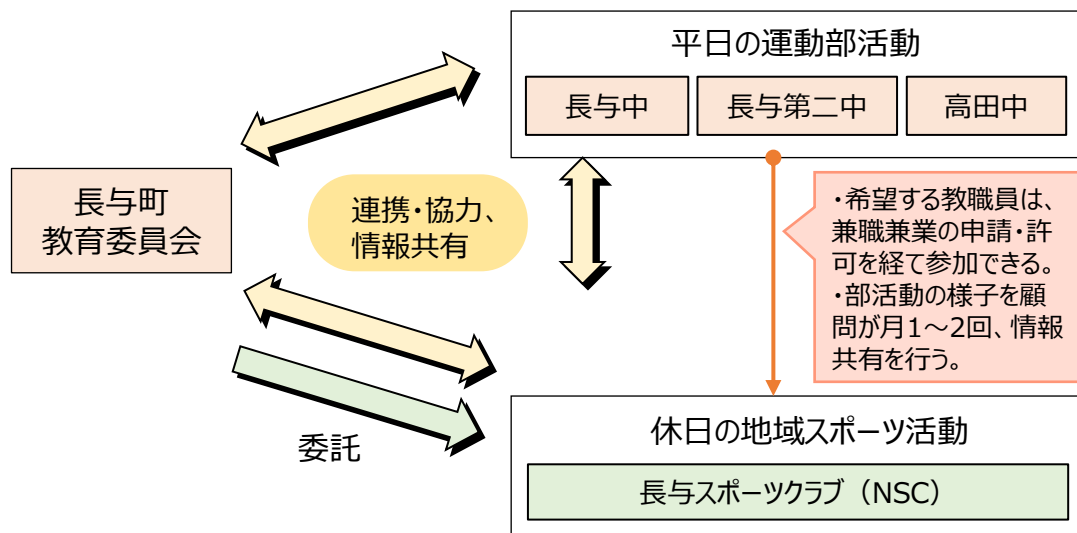
種目別の指導者数・参加者数 (令和5年12月末時点)

種目	卓球	陸上	サッカー	バスケットボール	バレーボール	バドミントン
活動の様子						
指導者数	12名、3名	6名(4)、4名	8名(4)、3名	5名(2)、1名	6名(3)、4名	13名、5名
参加者数	32名 (男14、女18)	28名 (男17、女11)	35名 (男33、女2)	52名 (男33、女19)	30名 (男17、女13)	66名 (男31、女35)
種目	ソフトテニス	硬式テニス	軟式野球	柔道	剣道	弓道
活動の様子						
指導者数	16名(2)、3名	6名(1)、6名	4名(2)、1名	5名(2)	6名、1名	4名、2名
参加者数	52名 (男27、女25)	13名 (男6、女7)	12名 (男子のみ)	7名 (男子のみ)	1名 (男子のみ)	23名 (男9、女14)

2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（市区町村における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

- **教育委員会**（学校教育課）
 - 部活動の地域移行に係る総合窓口、全体コーディネート
 - 委託金・補助金の申請・報告
- **教育委員会**（生涯学習課）
 - 総合型地域スポーツクラブの支援窓口
 - 学校施設の利用規則整備
- **教育委員会**（教育総務課）
 - 部活動・中体連補助金の整備
- **首長部局**（政策企画課）
 - 企業版ふるさと納税、寄附金の総合窓口
- **首長部局**（議会事務局）
 - 他市町の議会視察対応窓口

年間の事業スケジュール

月	内容
4月	・地域スポーツ活動指導者研修会（コンプライアンス） ・長与町地域スポーツ活動（12種目）開始 ・教育委員会・NSC幹部の情報共有・課題検討（月1~2回）
5月	・部活動地域移行コーディネーターの就任 ・令和5年度第1回検討委員会の開催
6月	・種目別指導者研修会の開催（6月~2月）
7月	・令和5年度第2回検討委員会の開催
8月	・熱中症対策（注意喚起、製氷機、WBGT測定、巡回等） ・教育委員会・NSCの担当者定例打合せ実施（月1回）
9月	・海洋スポーツ体験（SUP）

月	内容
10月	・指導者研修会（大阪体育大学 10月~2月）
11月	・教職員への満足度調査の実施
12月	・企業との三者連携協定式（企業版ふるさと納税 第1号） ・長与スポーツクラブフェスタの開催
1月	・指導者（リーダー・サブリーダー）説明会の実施 ・生徒、保護者、管理職への満足度調査の実施 ・新中学生・保護者説明会（3中学校）
2月	・令和5年度第3回検討委員会の開催 ・長与町地域スポーツ活動1周年記念イベントの開催（石川佳純47都道府県サックスツアー-in長崎・長与町）
3月	・事業完了報告書・成果報告書の作成・提出

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

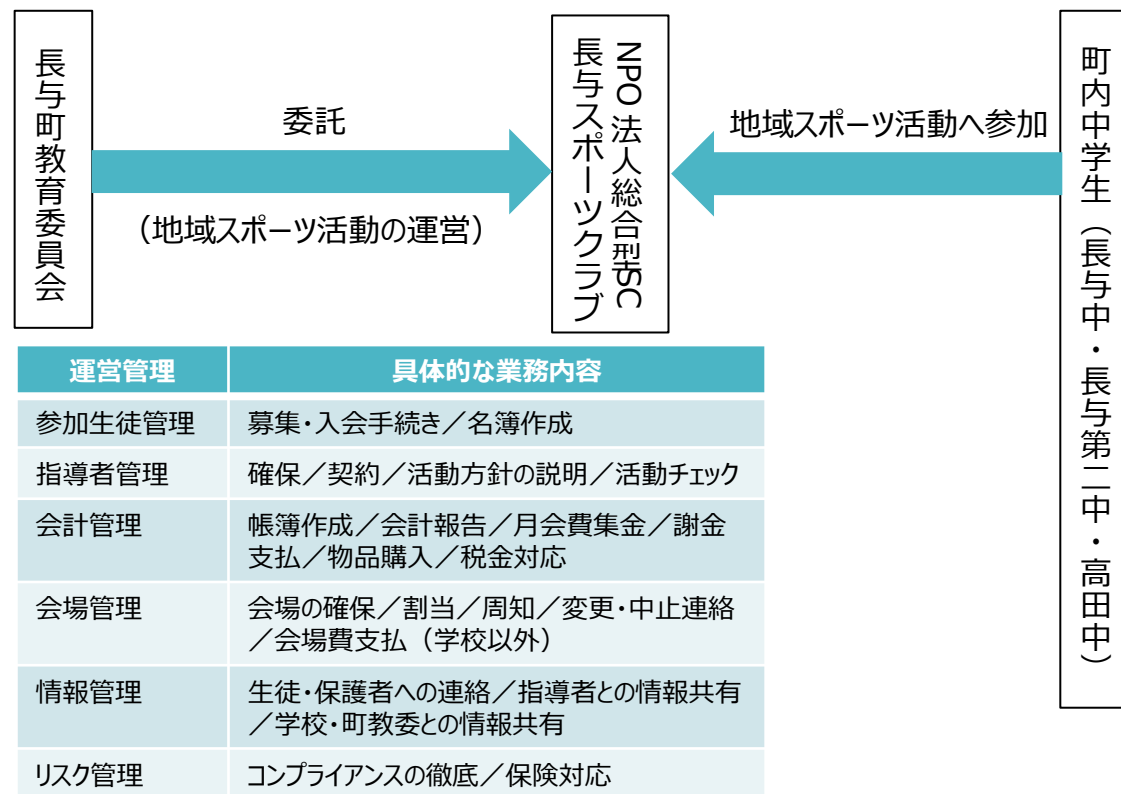
拠点校数	3校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	卓球、バスケットボール、サッカー、陸上、バレーボール、バドミントン、ソフトテニス、硬式テニス、軟式野球、柔道、剣道、弓道の12種目
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	46部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	長与中学校、長与第二中学校、高田中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	3部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営主体名	NPO法人総合型SC長与スポーツクラブ
運営類型	総合型地域スポーツクラブ運営型
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月6回程度
指導者の主な属性	教員
活動場所	長与中学校グラウンド、高田中学校グラウンド
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：36,000円/年(12か月)
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



- フルタイム職員1名
月・火・水・金・土 8時45分～17時30分
- パートタイム職員1名
月・水・金 14時30分～16時30分

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

- ・長与町内の3中学校とその教職員、部活動の地域移行に関する指導者・受け皿・関係団体との調整を行うコーディネーターを配置した。
- 地域スポーツ活動、学校部活動の巡回を通じて、リスクマネジメント、課題への対応を行った。
- 部活動の地域移行の様子を地域スポーツ活動通信として、月2回程度、情報発信を行った。
- 教育委員会とNSCの担当者による定例打合せを開催し、地域スポーツ活動の進捗状況を確認し、今後の対応を検討した。

取組の成果

地域スポーツ活動、部活動の巡回

【実績】
 ・コーディネーターは非常勤で、月水金の10時～16時、土曜の8時～12時に勤務

【成果】
 ・現場の巡回を通して、子どもたちの活動の様子を確認、指導者・保護者の声の聴取を通じて、取組の状況を把握することができた。

地域スポーツ活動通信の定期発行

【実績】
 ・令和5年4月以降、地域スポーツ活動の様子やお知らせ等、毎月2回程度発行

【成果】
 ・年間を通して、定期的に20を超える情報発信を行うことができた。

教委会、NSCの定例ミーティング開催

【実績】
 ・8月以降毎月1回、地域スポーツ活動の状況について、学校教育課部活動の地域移行コーディネーター、生涯学習課スポーツ振興班、NSC担当者等の関係者で情報共有を図った。

特に工夫した事項

【工夫】
 ・活動の巡回時は、新たな取組に対する生徒の様子を観察したり、顧問・指導者、保護者に対して、不安や課題がないかなど、寄り添った傾聴を心がけた。

【工夫】
 ・教育委員会のホームページに掲載するだけでなく、学校、長与スポーツクラブ（NSC）へも共有するとともに、保護者へ直接配信した。

【成果】
 ・コーディネーターが進行し、担当者が翌月の活動予定や、参加者や指導者等の声など活動状況を共有し、関係者間で確認することができた。
 ・熱中症対策、スポーツフェスタ等の準備・対応を円滑に行うことができた。

今後の課題と対応方針

【今後】
 ・令和6年度から部活動の地域移行を所管していた学校教育課から生涯学習課スポーツ振興班に所管が移ることから、学校と地域のつなぎ役としてコーディネーターが連携拠点となって地域スポーツ活動の運営を支援する体制となる。

【今後】
 ・令和6年3月をもって、長与町の休日の地域スポーツ活動が1年を経過することから、教育委員会からの定期的な情報発信は一定の役割を終え、今後はNSCによる情報発信を予定している。（これまでも毎月のスケジュール等は、NSCから生涯学習課を通じて各小中学校へ配信）

【工夫】
 ・日程、議題、準備する資料について、事前に計画をして定例ミーティングを開催した。

【今後】
 ・引き続き、コーディネーターを中心に情報共有を図る。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・長与町地域スポーツ活動の指導者を確保した。
- 指導者90名（内 兼職兼業20名）、指導補助の大学生30名の計120名の指導者の確保し、NSCと契約した。
- 4月、2月に指導者研修会、指導者説明会を開催した。
- 兼職兼業ガイドラインを整備して、希望する教職員が地域スポーツ活動に参加できるよう整備した。

取組の成果

●確保した指導者

【実績】

種目	指導者	内 教職員 (兼職兼業)	大学生	計
卓球	12		3	15
陸上	6	(4)		6
サッカー	8	(4)	3	11
バスケットボール	5	(2)	1	6
バレーボール	6	(3)	4	10
バドミントン	13		5	18
ソフトテニス	16	(2)	3	19
硬式テニス	6	(1)	6	12
軟式野球	4	(2)	1	5
柔道	5	(2)		5
剣道	6		1	7
弓道	4		2	6
計	91	(20)	33	124

【成果】

・地域スポーツ活動で実施する12種目の指導者を確保することができ、定期的に休日の地域スポーツ活動を実施することができた。

【工夫】

・指導者の確保にあたっては、公募は行わず、これまで学校部活動の外部指導者として協力していた方や保護者など、現在活動する指導者のネットワークを通じて確保した。

・大学生は、あくまでも指導者の補助という位置づけで、教育委員会が長崎大学のボランティア支援組織を通じて公募を行い、見学・体験を通じて、指導者と大学生のマッチングを経て確保した。

【今後】

・地域スポーツ活動に携わる指導者が、資格取得に向けた研修会等を受講することで、子どもたちの楽しいスポーツ環境をよりよくしていくことが求められる。研修受講や資格取得には、さまざまな費用が発生することから、係る費用の支援することによって、質の保証につながる。

・兼職兼業ガイドラインは、毎年更新を行う。

特に工夫した事項

今後の課題と対応方針

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

- ・JSPOの公認スポーツ指導者資格や大阪体育大学の運動部活動指導認定プログラム等、指導者の資質向上のための研修の受講を促進した。
- 10月から2月まで、大阪体育大学の運動部活動指導認定プログラムを開催し、受講料の一部を支援した。
- JSPOの公認スポーツ指導者資格等につながる指導者研修会の受講に対して、受講料の一部を支援した。
- スポーツデータバンク(株)、三井住友海上火災保険(株)、長与町との三者連携協定を通じて、指導者の資質向上のオンライン研修を開催した。

取組の成果

大阪体育大学の運動部活動指導認定

【実績】
 ・地域スポーツ活動に携わる14名の指導者が参加した。
 ・10月、2月のハイフレックスの授業では、大阪体育大学から講師陣が長与町に来て、実践指導等の研修が開講された。

【成果】
 ・12名が受講修了し、JSPOの資格取得見込み。
 ・種目別の指導者が同じプログラムを一緒に受講することで、指導者間の共通認識やネットワークを図ることができた。

【工夫】
 ・受講料20,500円の一部（10,000円）を長与スポーツクラブが補助することで、指導者の負担軽減を行った。
 ・大阪体育大学の事務局と連携し、事務手続きやハイフレックス授業に向けた準備・調整を行い、参加する指導者が円滑に受講できるよう支援した。

【今後】
 ・充実したプログラムで継続して実施したいが、ハイフレックスの現地開催など、指導者個人で負担する費用に加えて、受け皿が負担する費用があることから、希望者や予算の範囲内で、今後実施可能性を検討する。

種目別指導者研修会の開催（R4補助事業）

【実績】
 ・種目別に計15回の種目別指導者研修会を開催した。

【成果】
 ・種目ごとのニーズに応じて、中学生世代への指導、審判研修、救命救急等の研修会を実施することができた。

【工夫】
 ・NSCを通じて、各種目の指導者（リーダー・サブリーダー）へ計画作成を依頼することで、各種目のニーズに応じた研修会を実施できるようにした。

【今後】
 ・引き続き、指導者が必要な研修会を受講・開催できるよう支援をしていく必要がある。

特に工夫した事項

今後の課題と対応方針

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：エ：面的・広域的な取り組み

取組事項

- ・長与町内すべての中学校（長与中学校、長与第二中学校、高田中学校）における休日のすべての運動部活動（46部活）を地域スポーツ活動へ移行した。
- 6月末までは中学1年生から3年生までの生徒約530名が参加した。
- 夏の中体連終了後、徐々に参加者が減少し、12月には中学1年生・中学2年生までの生徒約350名が参加した。
- 地域スポーツ活動の実績は、12種目21活動で計約1,200回（10ヵ月）を実施した。

特に工夫した事項

- ・屋外種目のサッカー、軟式野球、陸上、弓道、ソフトテニス、硬式テニスについては、雨天時に活動が中止になることがある。
- 屋外種目専用の連絡体制を整備し、雨天時の活動中止判断や連絡方法について方針を示して統一を図った。
- サッカーと硬式テニスについては、連絡ツールアプリのSgrum（スグラム）を導入し、スケジュール管理、保護者への連絡が取りやすくなった。
- ・天候や参加者不足等により、月に4回未満の活動実績となった場合は、参加費を減額して徴収した。
- ・夏の期間の熱中症対策として教育委員会、長与SCでミーティングを行い、活動中のWBGT値の測定、製氷機や塩分補給等飲料水の準備や対応を行った。
- ・種目別の特性がある中で、統一した方針等、長与SCから指導者のリーダー・サブリーダーに対して情報共有を図った。
- ・教育委員会、コーディネーター、長与SCの担当者の顔と名前が一致するよう、定期・不定期に活動を巡回し、コミュニケーションを図った。

今後の課題と対応方針

- ・令和6年度から学校教育課から生涯学習課へ地域スポーツ活動の所管が移ることに伴い、関係者が協力して対応していく。
- 生涯学習課スポーツ振興班の担当者の顔と名前を、地域スポーツ活動の指導者（リーダー・サブリーダー）に周知する。
- 部活動地域移行コーディネーターが、定期的な情報共有の場を設定するなど、学校と地域の連携拠点としての役割を果たす。
- 中体連が主催する大会参加規程の全国的な変更に伴う対応として、学校教育課、各中学校、地区中体連担当者、他市町のコーディネーターを含めた連携・情報共有を通じて、子どもたちが成果を発揮できる機会に円滑に参加できるよう調整を図る。

■取組の成果

種目別の地域スポーツ活動の参加者数推移と実施回数計（令和5年5月～令和6年2月）

2023年度参加者推移		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月～2月	活動回数計
卓球	長与男子	18	8	9	9	9	7	7	7	64
	長与女子	15	15	15	14	9	9	9	8	64
	長与第二	21	21	21	19	19	18	18	17	64
	高田	7	2	2	0	0	0	0	0	5
陸上		39	39	40	32	29	28	28	28	43
サッカー		59	51	51	51	37	35	35	35	64
バスケットボール	男子	47	46	44	43	36	35	34	33	66
	女子	31	31	31	31	28	28	21	19	66
バレーボール	男子	24	23	23	22	19	19	19	17	66
	女子	23	16	13	14	13	13	13	13	63
バドミントン	長与男子	22	22	22	15	14	14	13	13	72
	長与女子	25	21	20	17	16	15	15	15	66
	長与第二	29	25	26	25	25	25	25	25	70
	高田	23	16	15	14	13	13	13	13	69
ソフトテニス	男子	26	26	30	27	27	27	28	27	59
	女子	36	26	26	28	28	27	27	25	58
硬式テニス		18	24	24	13	13	13	13	13	60
軟式野球		27	22	22	16	14	13	12	12	63
柔道		8	8	8	8	8	7	7	7	52
剣道		10	8	4	3	2	1	1	1	44
弓道		36	32	29	28	24	23	23	23	21
合計		544	482	475	429	383	370	361	351	1,199

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項

- ・地域スポーツ活動において、世代間交流や親子で参加できるようなスポーツイベントを実施した。
- 9月に、大村湾において、海洋スポーツ体験（SUP）を実施した。
- 12月に、親子で参加できる長与スポーツクラブフェスタを実施した。
- 2月に、卓球の石川佳純さんを招いて、小学6年生を対象に卓球教室を実施した。

取組の成果

海洋スポーツプログラム：SUP（サップ）

【実績】
 ・R5年9月に3回のプログラムを実施。
 1回目：SUP体験会
 2回目：上達を目的としたレッスン&体験会
 3回目：島一周等のショートコースクルージング

【成果】
 ・小学生4名、中学生1名、大人3名が参加
 ・参加者からは満足したとの声が寄せられた。

【工夫】
 ・1回の体験ではなく、3回のプログラムを通じて、海洋スポーツを楽しみつつ、上達することが体験できるプログラムとした。
 ・長与スポーツクラブ会員は無料

【今後】
 ・中学生が参加して楽しいプログラムとなるよう工夫が必要。

長与スポーツクラブフェスタ

【実績】
 ・R5年12月17日（日）午後開催
 体験の流れ：3つのスポーツ体験が可能
 例 13時00分～卓球（町民体育館）
 14時20分～テニス（町営テニスコート）
 15時40分～サッカー（町営フットサルコート）

【成果】
 ・小学生25名、中学生6名、大人25名が参加
 ・フェスタ終了後、NSCの教室への参加希望の連絡があった。

【工夫】
 ・卓球、バドミントン、硬式テニス、ソフトテニス、サッカー、ダンスのうち、3つのスポーツ体験を可能とし、いろいろなスポーツに親しむ機会とすることした。
 ・参加費無料

【今後】
 ・開催時期を工夫して実施予定。

アスリートを招いた卓球教室

【実績】
 ・R6年2月29日（木）午後開催
 ・卓球教室（全員）、トークショー&質疑応答、デモンストレーション等を実施

【成果】
 ・長与町立小学6年生約380名が参加
 ・卓球Cに参加する中学生約30名が参加

【工夫】
 ・4月から新中学生となる小学6年生を対象に、トップアスリートと直接、スポーツを通じて触れ合う体験、スポーツについて語ってもらうこと。
 ・費用の一部に企業版ふるさと納税を活用した。

【今後】
 ・実施体制や財源等、地域スポーツ活動の12種目の中で実現可能性を慎重に検討していく。

特に工夫した事項

今後の課題と対応方針

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

- ・地域スポーツ活動に係る参加する困窮世帯に対する支援策について、長与スポーツクラブにおいて検討し整備した。
- 月会費の一部を一時的に長与スポーツクラブが立て替えて支援する「地域スポーツ活動サポート基金（スポサポ）」を整備した。
- ・企業版ふるさと納税や企業等からの寄附などの多様な財源の在り方の検討を行った。
- 長与町内企業（有限会社長崎井上様など）から長与町地域スポーツ活動の消耗品購入等に対する寄附をいただいた。
- 長与町外企業（三井住友海上火災保険㈱）から指導者研修の充実等に対して企業版ふるさと納税をいただいた。

取組の成果

地域スポーツ活動基金（スポサポ）	長与町内企業からの支援・協力	長与町外企業からの企業版ふるさと納税
<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長与スポーツクラブが、経済困窮家庭世帯への支援策を整備した。 ・月会費3,000円を1,000円/月で参加することができる。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・申請・承認を経て地域スポーツ活動に参加できた。 	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消耗品費購入に対する寄附(300千円) ・地域スポーツ活動1周年記念イベントに対する協賛品（8社） <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ用品(用具・消耗品)を購入できた。 ・長与町とゆかりのある企業と連携・協力して、地域スポーツ活動1周年記念イベントを盛り上げることができた。 	<p>【実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域スポーツ活動に係る三者連携協定の締結 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業版ふるさと納税による寄附(2,000千円) ・オンライン指導者研修会の実施 ・アスリートを招へいたスポーツイベントの開催
<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学援助支援世帯の家庭への案内（申請書・要綱等）は、教育委員会から学校を経由して行った。 ・子どもが20歳になる年度から、最長3年間かけて長与スポーツクラブに寄附する形で、持続可能な仕組みとしていく。 	<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・購入したスポーツ用品と活動に参加する子どもたちの写真を撮り、お礼状を送付した。 ・アスリートを招へいたイベントをフックに、長与町の取組を説明し、協力・支援を依頼する機会を得た。 	<p>【工夫】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決に向けて、行政と企業が知恵を出し合い、子どもたちのスポーツ環境の充実に向けた効果的な取組を協議した。
<p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、希望する生徒が経済的理由で参加できないことがないよう、支援策を継続していく。 	<p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、長与町内外の企業とコミュニケーションを図り、取組に対する支援・協力が得られるよう努める。 	<p>【今後】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、政策企画課と連携して、企業版ふるさと納税

特に工夫した事項

今後の課題と対応方針

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ク：その他の取組

取組事項

- ・生徒、教職員、保護者等へのニーズ・満足度調査等を実施した。
- 11月に、教職員に対する満足度調査を実施した。
- 12月の検討委員会において教職員の満足度調査結果を共有し、取組の振り返りを行った。
- 1月～2月に、生徒、保護者への満足度調査を実施した。
- 2月の検討委員会において、生徒・保護者の満足度調査結果を共有し、取組の振り返りを行った。

取組の成果

- ・生徒、教職員は満足しているが、保護者は活動場所への送迎負担もあり生徒・教職員に比べると満足度が低かった。
- 生徒の9割以上は地域スポーツ活動に満足しており、教職員の9割以上も部活動の地域移行の取組に満足している。
- 休日の部活動の地域移行の取組を通じて、教職員の働き方改革につながっている可能性が高い。
- 保護者は、参加費や送迎といった負担が増えていることから、生徒・教職員に比べ、保護者の満足度は低いですが、8割程度は満足している。

特に工夫した事項

- ・アンケートへの回答率を高めるため、教職員と生徒・保護者のアンケート実施時期をずらしたり、回答率が上がるよう工夫を行った。
- 教職員へのアンケートは、途中段階で回答実績を学校へ連絡し、各中学校長から未回答者へ回答するよう連絡するようにした。
- 生徒へのアンケートは、学校に回答の協力依頼を行い、地域スポーツ活動の参加の有無に関わらず回答するように依頼をした。
- 保護者へのアンケートは、教育委員会から直接連絡が届く形で情報発信を行い、回答率が上がるよう努めた。

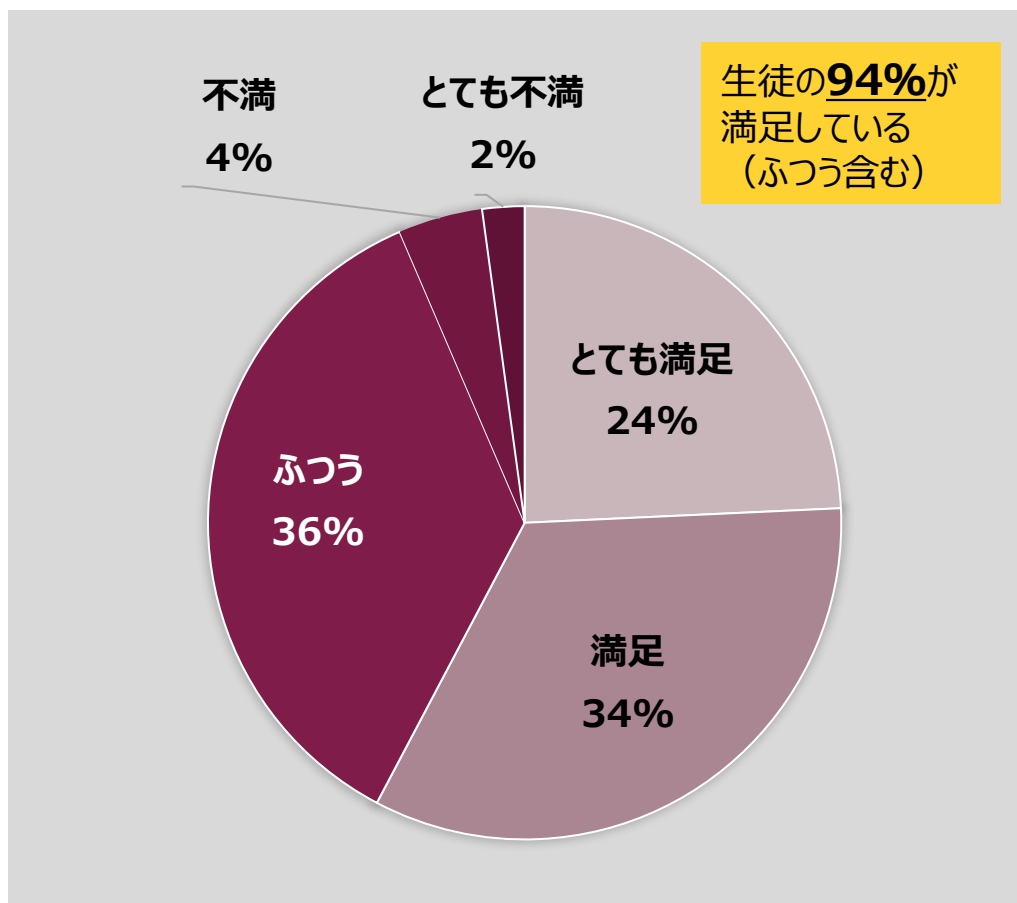
今後の課題と対応方針

- ・アンケート結果を踏まえ、地域スポーツ活動について理解が進んでいない部分など、FAQを作成し、長与町のホームページへ掲載する予定。
- ・アンケートの実施は、取組の状況を把握するよいツールであるが、調査する側、回答する側、ともに一定の負担がかかることから、必要最小限にする予定としている。（教職員への満足度調査については廃止し、超過勤務時間等の定量的なデータで対応する等）

2. 実証内容と成果

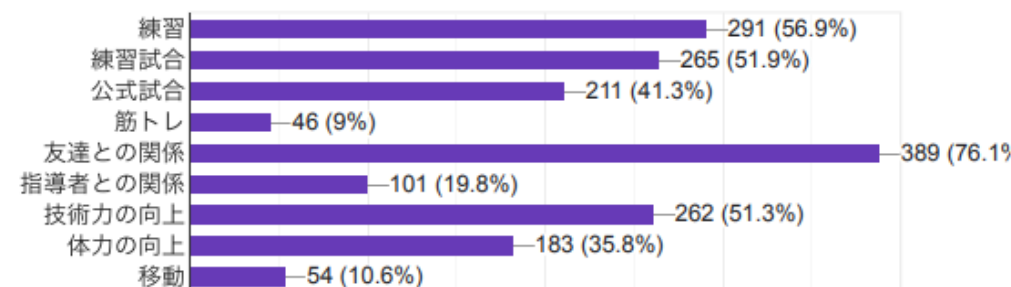
参考資料（生徒のアンケート結果）

実施時期 令和6年1月～2月
 回答者数 全体771名（回答率71.5%）
 地域スポーツ活動の参加者472名（回答率86.8%）

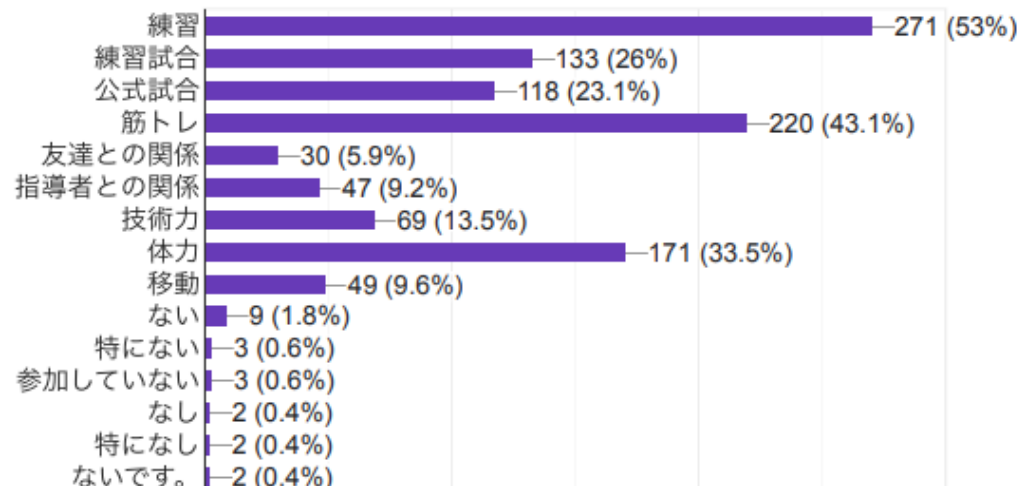


【生徒の満足度】

● 休日の地域スポーツ活動で楽しいと感じる（感じたこと）【複数回答】



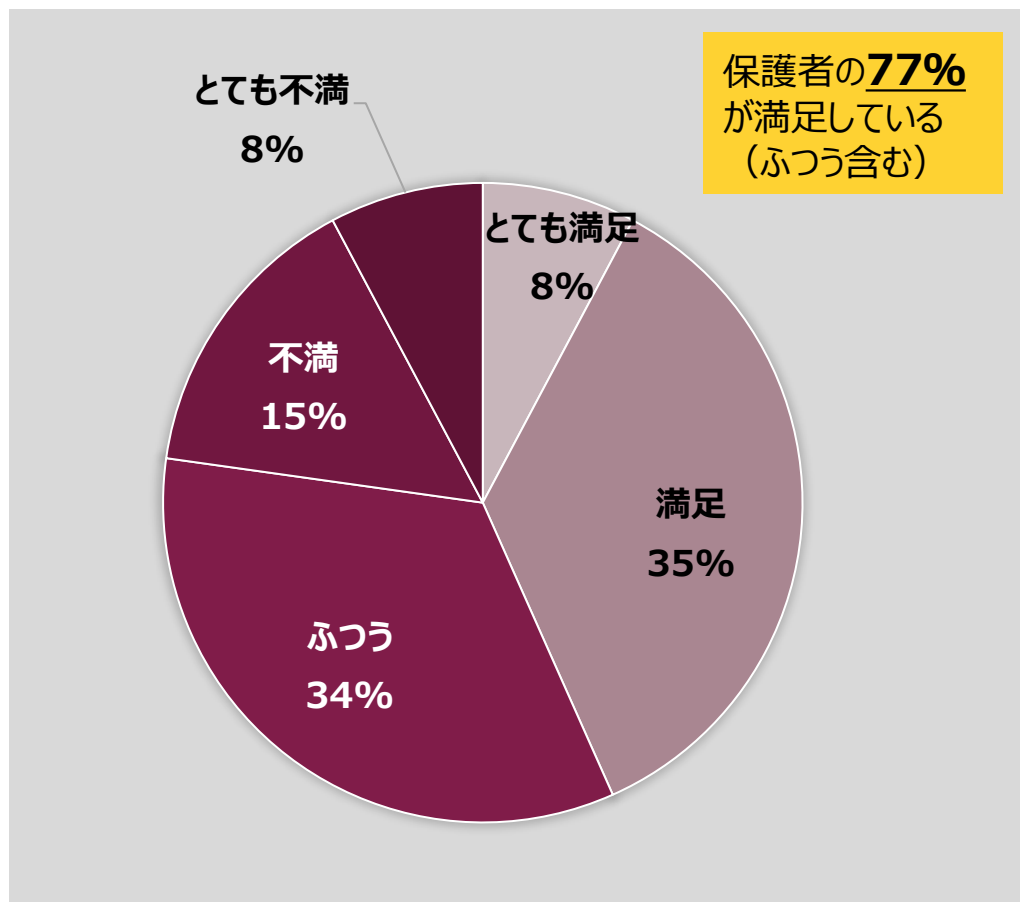
● 休日の地域スポーツ活動できついと感じる（感じたこと）【複数回答】



2. 実証内容と成果

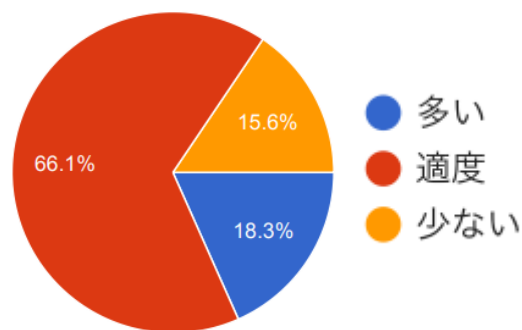
参考資料（保護者のアンケート結果）

実施時期 令和6年1月～2月
 回答者数 全体205（回答率19.0%）
 地域スポーツ活動の参加者の保護者167名（回答率30.7%）

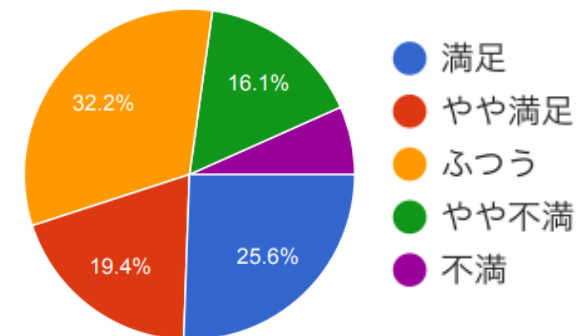


【保護者の満足度】

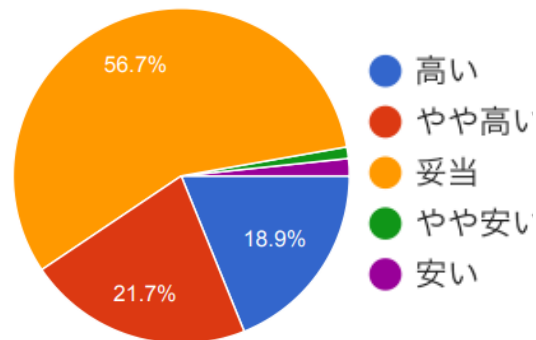
● 地域スポーツ活動の頻度



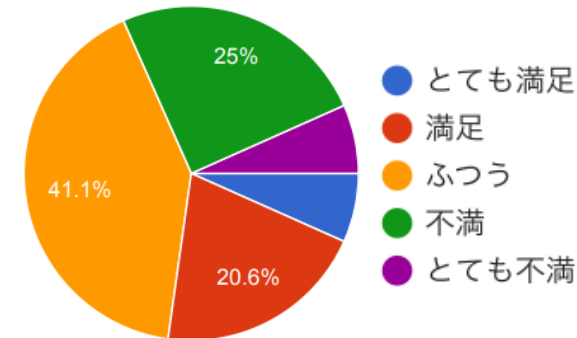
● 地域スポーツ活動の指導



● 地域スポーツ活動の参加費



● 地域スポーツ活動の場所



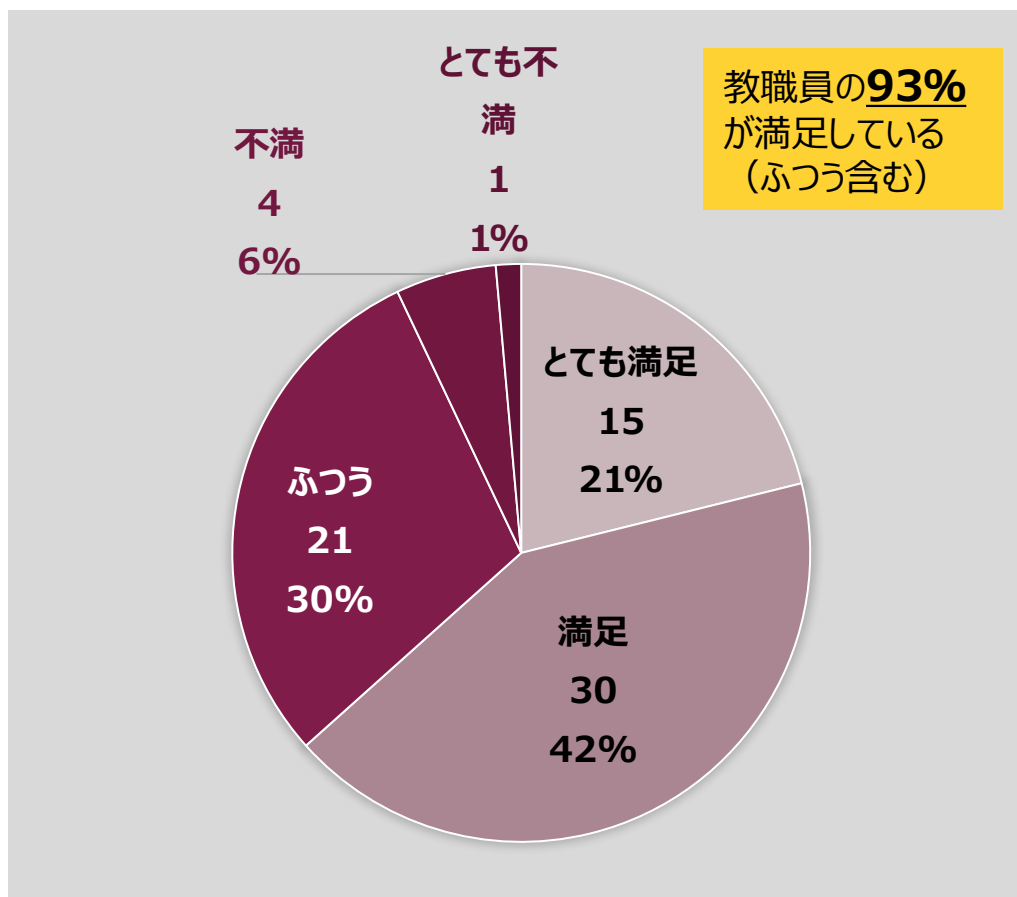
2. 実証内容と成果

参考資料（教職員のアンケート結果）

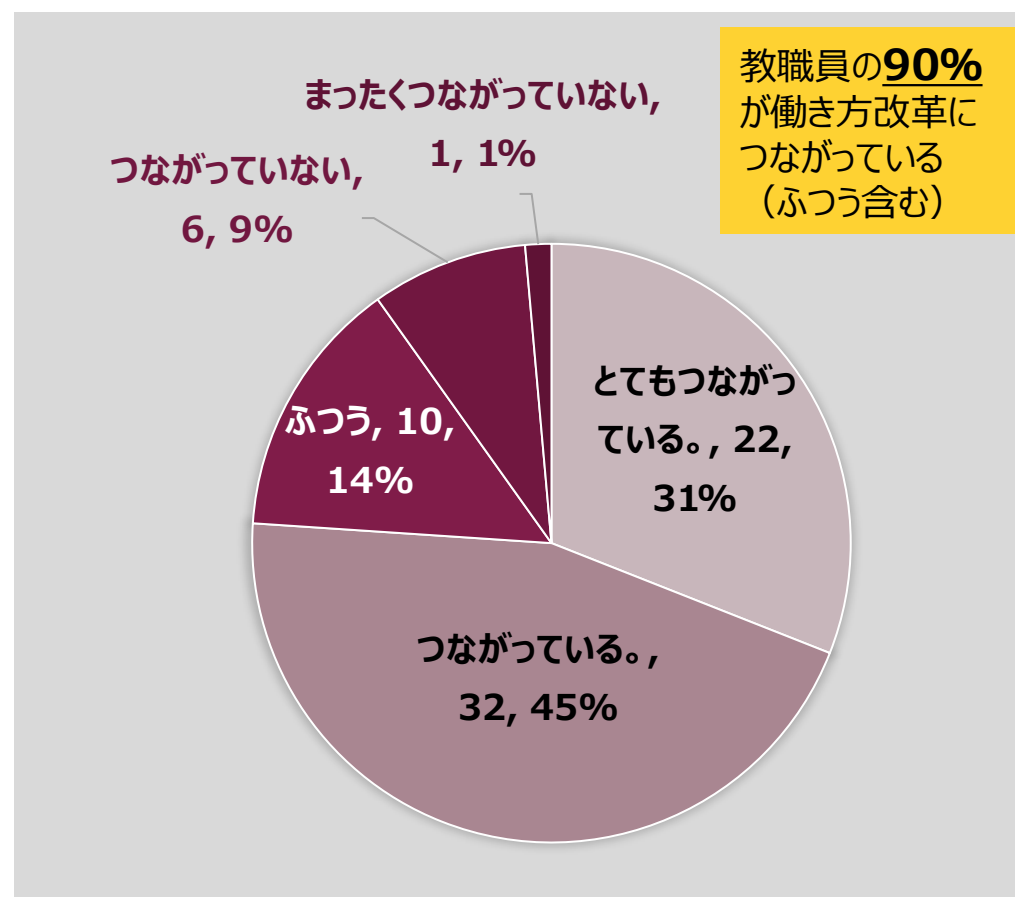
実施時期 令和5年11月～12月
回答者数 71名（回答率100%）

（参考）休日の地域スポーツ活動への教職員の関与形態と割合

①	顧問かつ兼職兼業している教職員	28%
②	顧問で兼職兼業はしていない教職員（情報共有実施）	20%
③	顧問だが情報共有を実施しない教職員	17%
④	顧問ではなく、休日の活動も関与しない教職員	35%



【部活動の地域移行に対する教職員の満足度】

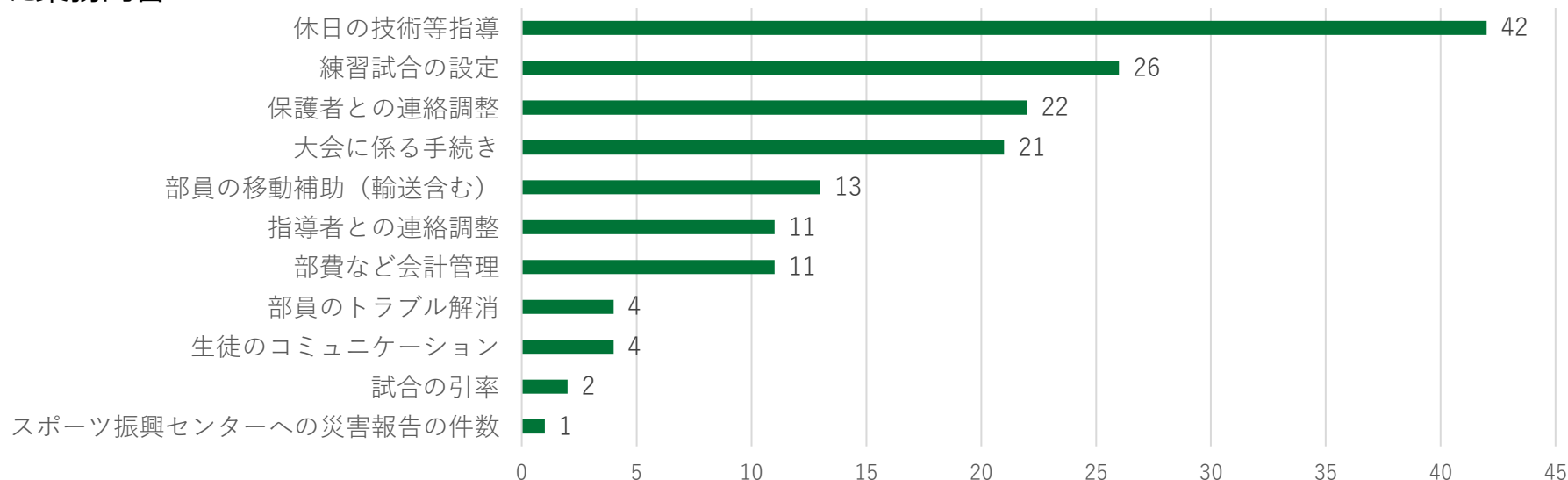


【教員の働き方改革につながるか（教職員の回答）】

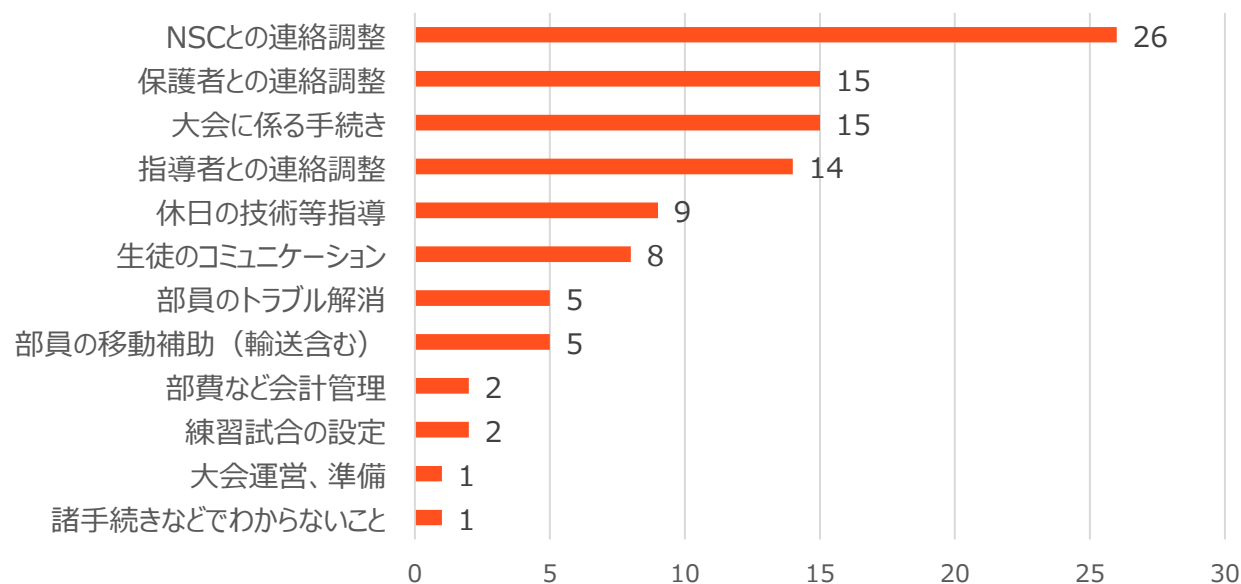
2. 実証内容と成果

参考資料（教職員のアンケート結果）

■ 減った業務内容



■ 増えた業務内容



2. 実証内容と成果

参考資料（広報物）

長与町地域スポーツ活動通信 ～部活動の地域移行に関するお知らせ～
2024年3月1日（金） 第22号

★トップアスリートを迎えて★

石川佳純 47 都道府県サックスツアー in 長崎・長与 開催

2月29日（木）13:30より長与小学校体育館において、長与町地域スポーツ活動1周年記念として、昨年5月に現役引退した卓球の石川佳純さんをお招きして、町内5校の小学6年生を対象としたイベントを開催しました。トークショーでは、石川さんのこれまでの経歴をもとに小学生からの質問に答えていただきました。世界ランク3位に入ったときの喜びや機嫌が悪く泣いた時の我慢、夢を持って努力を続けることの大切さなどを伝えていただきました。

また、アススタントのトップ名古屋 鈴木孝筋さんとの実戦形式のゲームを見せていただき石川さんの技術の高さを実感するとともに、児童全員との卓球体験やクラス代表との卓球のゲーム、中学生卓球部の生徒たちと絆ラーの挑戦など会場も大いに盛り上がりしました。なお、会場では東京オリンピックで獲得した銀メダルを回していただき、一人ひとり手に取って、子どもたちからは、「重たいね」とか「大きいね」などの声も聞かれました。オリンピックメダリストとのふれあいの時間を楽しくイベントとなりました。石川佳純さんのお話を聞いたことを活かし、小学6年生には中学校入学後、スポーツや文化を通して自分の目標を見つけて努力する人に成長してもらいたいと思います。



短距離の走り方

2月24日（土）、かきどまり陸上サブトラックにおいて陸上Cの指導者研修会を開催しました。高瀬 慧 氏をお招きし3時間あまり、楽しみながらのビルドアップや短距離走の基本などたくさんのお話をいただきました。指導者にも生徒にも有意義な時間を過ごされました。



＝高瀬 慧（たかせ けい）氏のプロフィール＝
○順天堂大学陸上部一富士通陸上競技部
○ロンドンオリンピック出場 200m 4×400mリレー
○リオデジャネイロオリンピック出場 200m
○世界選手権出場 2回 100m、200m、リレーなど
※中学校時代は県大会予選で敗退するレベルだったそうですが、その後の努力で日本代表の座をつかみ取った選手です。



長与町の地域スポーツ活動は、参加者の皆様からの会費のほか、様々な財源で支えられています。



長与町では、随時、企業や個人の皆様からの寄附、企業版ふるさと納税など、受付しております。

【本件お問合せ先】長与町教育委員会 学校教育課 部活動の地域移行担当
TEL 095-801-5681 FAX 095-883-7151 E-mail gakkyo@nagayo.jp

●長与町HP



●通信



長与スポーツクラブ会報誌 第197号 発行：NPO法人 長与スポーツクラブ
2024/2/20

地域スポーツ活動1周年記念 石川佳純サックスツアー

昨年4月に、長与町立中学校の12の部活動種目に対応した「地域スポーツ活動」を開始しました。間もなく1年が経過します。そこで、長与町教育委員会と協働し、「石川佳純サックスツアー」で、全国を巡っていらっしゃる卓球のメダリスト 石川佳純さんを長与町にお招きし、同ツアーを開催することになりました。開催日は2月29日（木）、長与小学校体育館で実施します。招待者のみの入場としています。

石川佳純さんは、ロンドン・リオ・東京オリンピックで3度のメダル、国際大会・国内大会でも優勝回数は多数で、国内のみならず、海外でも知られた素晴らしいアスリートです。今回の参加対象は、卒業を目前にした町内の小学校6年生です。参加や観覧の公募はしませんので、一般の方々の入場はできません。この目的は、以下の通りです。

- トップアスリートによるスポーツ教室を通じて、スポーツを楽しむ、スポーツ参加への意欲向上を図る。
- 町内の小学6年生が一堂に会してスポーツ体験を行うことで、スポーツを通じた一体感や仲間との交流を通じて、支え合うこと、助け合うことを体験する。

内容は、「石川佳純さんによる卓球のデモンストレーション」、「卓球体験（全員）」、「トークショーと質問」を予定しています。

指導者研修終了

2月4日大阪体育大学より3名の先生にお越しいただき、「運動部活動指導認定プログラム」の最終研修を実施しました。参加した指導者の皆様には、10月のスタートから、のべ66時間の講義を受けていただきました。受講された皆様、大阪体育大学の関係者の皆様、大変お世話になりました。

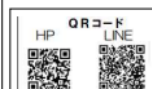
ダンス・フィットネスの月会費について

ダンス教室とフィットネス教室の会費を4月より値上げいたします。ご理解とご参加、よろしくお願いたします。
月会費 2,500円
(現在 2,000円)

教室募集状況 (2月時点) 募集中：ダンス/サッカー/フィットネス/親子テニス
中学生地域スポーツ活動も募集中です。
募集停止：親子バドミントン

特定非営利活動法人総合型SC長与スポーツクラブ
長与小学校体育館内 HPアドレス <http://www.nagayooc.sakura.ne.jp/NSC>
TEL/FAX 095-865-9511 メールアドレス nsc@jewel.ocn.ne.jp

事務所窓口開放時間
月・水・金
14:30～16:30



●長与SCのHP



●会報誌



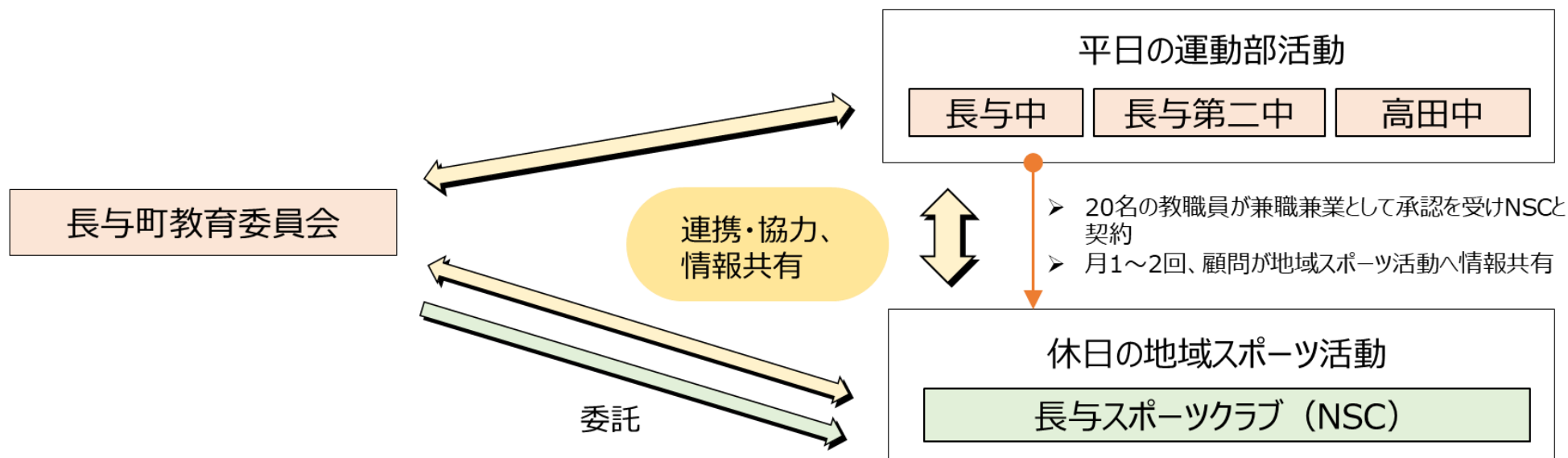
概要 令和5年4月からの地域スポーツ活動に関するお知らせを掲載
内容 地域スポーツ活動の活動実績や活動予定など情報共有・報告中心
発行 2023年4月7日（金）～2024年3月1日（金）計22号
作成 部活動地域移行コーディネーター
発信 町教委から保護者、学校、長与SCに発信。長与町ホームページへ掲載

概要 長与SCの会報誌
発行 毎月1回（第3火曜）
作成 長与スポーツクラブ
内容 毎月の地域スポーツ活動のスケジュール掲載
発信 長与SCのホームページへ掲載。町教委から町内小中学校へ発信

2. 実証内容と成果

参考資料（令和5年度の長与町の取組成果説明資料）

令和5年度の長与町の地域スポーツ活動の実施体制と取組①事務局体制・受け皿の基盤強化



■長与町教育委員会の取組

部活動地域移行コーディネーターの配置

- ・地域スポーツ活動における指導者、保護者へのヒアリング
- ・指導者研修会開催や大会参加に係る連絡調整
- ・地域住民向けの定期的な情報発信（通信）
- ・関係者による定例ミーティングの開催

事務局体制

■長与スポーツクラブ（NSC）の取組

事務局長、フルタイム職員の配置・採用

- ・地域スポーツ活動の運営全般に係る業務遂行（会場確保、指導者謝金、参加費徴収等）
- ・会計処理：会計ソフト導入、税理士との配置
- ・事務効率化：十八親和銀行のこうふりネット（電子決済、ビジネスバンキングの活用）

【他市町との意見交換や視察時の説明資料】

2. 実証内容と成果

参考資料（令和5年度の長与町の取組成果説明資料）

令和5年度の長与町の地域スポーツ活動の実施体制と取組②指導者確保・指導者の質向上

■長与町教育委員会の取組

指導者の量的確保、質的担保

- ・4月に指導者研修会（コンプライアンス）を開催
- ・種目別の指導者研修会を年に2回開催（予定）
- ・大学生ボランティアの確保

指導者確保

■長与スポーツクラブ（NSC）の取組

公認指導者資格プログラムの開催、受講支援

- ・大阪体育大学の運動部活動指導認定プログラムの開催
- ・認定プログラム受講費（20,500円）の一部支援

●R5.4.2(日)、指導者研修会の開催



●野球Cの指導者研修会（審判研修）



●10月、2月に大阪体育大学の講師陣が長与で研修会実施



●ソフトテニスC@県立大学テニスコート



●サッカーC@長与中学校



- ・10月～2月、オンデマンド配信56時間
- ・10月、2月にハイフレックス10時間@長与町
- ・受講料 20,500円（令和5年度はNSCが内10,000円を補助）
- ・各種目1名以上受講予定（有資格者を除く）
- ・日本スポーツ協会公認指導者資格取得可能

[運動部活動指導認定プログラム 2023（令和5）年度版 - 大阪体育大学 \(ouhs.jp\)](https://www.ouhs.jp/)

【他市町との意見交換や視察時の説明資料】

2. 実証内容と成果

参考資料（令和5年度の長与町の取組成果説明資料）

令和5年度の長与町の地域スポーツ活動の実施体制と取組③財源確保

■長与町教育委員会の取組

財源確保
①

国や県の委託金・補助金の活用、自主財源の確保

- ・スポーツ庁の委託事業（R5年度10,660千円）
- ・スポーツ庁・長崎県の補助金（R5年度1,076千円）
- ・長与町の自主財源の確保（R5年度3,113千円）

財源確保
②

企業版ふるさと納税、企業からの寄附

- ・町内企業（有限会社長崎井上様）より300千円寄附
- ・町外企業（三井住友海上火災保険(株)様からの企業版ふるさと納税2,000千円寄附

●有限会社長崎井上様からの寄附



●企業との三者連携協定



■長与スポーツクラブ（NSC）の取組

受益者負担、経済困窮家庭世帯への支援

- ・月会費3,000円の徴収
- ・就学援助支援世帯に対しては、月会費2,000円の支援（地域スポーツ活動サポート基金）

企業による寄附・協賛

- ・スポーツイベントへの企業からの寄附・協賛の検討
- ・マイクロバスへの企業からの寄附・協賛の検討

●マイクロバスに協賛企業の看板掲載



●スポーツフェスタに物品協賛（Sgrum）



【他市町との意見交換や視察時の説明資料】

2. 実証内容と成果

参考資料（令和5年度の長与町の取組成果説明資料）

部活動の地域移行に係る三者連携協定（令和5年12月15日） ■長与町教育委員会の取組

長与町・スポーツデータバンク株式会社・三井住友海上火災保険株式会社

目的

相互の連携を強化し、部活動の地域移行を通じて、将来にわたり子どもたちがスポーツに継続して親しむことができる機会を官民で創出し、地域社会の持続的な発展に資する。

連携事項

- (1) スポーツ指導者の質の保証や質の向上に関すること
- (2) 子どもたちがスポーツを楽しむ環境づくりに関すること
- (3) 持続可能な地域スポーツ活動の運営基盤の支援に関すること
- (4) アスリートによるスポーツイベント等の開催による地域活性化に関すること
- (5) その他、部活動の地域移行の推進に必要なと認められること

効果

- スポーツ指導者の質の保証や質の向上
- アスリートによるスポーツイベントを通じた地域活性化
- 多様な財源確保



お問合せ

企業版ふるさと納税について ➡三井住友海上火災保険(株)公務開発部
三者連携協定に関する内容について ➡スポーツデータバンク(株)

三井住友海上火災保険から
長与町の「部活動の地域移行」への
企業版ふるさと納税 第1号！

部活動の地域移行×企業版ふるさと納税

長与町では「子育て」「教育」「健康づくり」を柱とした地方創生の取組を推進し、多くの方々が幸福を実感できるような「幸福度日本一のまち」を目指しています。



『幸福度日本一のまち』の実現へ

長与町が取り組む、部活動の地域移行が目指すもの

長与町には、3つの中学校（長与中学校・長与第二中学校・高田中学校）があります。令和5年度から、学校と地域が連携して、休日の部活動を学校の活動から地域の活動へ移行していきます。長与町では、近年、これまで横ばいであった人口は減少局面に入り、少子高齢化の進展が顕著になりつつあります。長与町の子どもたちがやりたいスポーツを楽しめる環境を創るとともに、長与町に勤務する教職員が健康で元気に働ける環境の2つを実現し、「子育て」「教育」「健康づくり」につなげていきたいと考えています。

2. 実証内容と成果

参考資料（令和5年度の長与町の取組成果説明資料）

令和5年度の長与町の地域スポーツ活動の実施体制と取組④楽しみ中心・生涯スポーツ

■長与スポーツクラブ（NSC）の取組

海洋スポーツプログラム: SUP（サップ）

参加者 長与町内の中学生等

内容

2023年9月に3回のプログラムを実施。
1回目：SUP体験会
2回目：上達を目的としたレッスン＆体験会
3回目：島一周等のショートコースクルージング

参加費用

3,000円（計3回）
SUPボード、パドル、ライフジャケット、保険料等
※長与スポーツクラブの会員は無料



長与スポーツクラブフェスタ

参加者 長与町内の中学生等

内容

2023年12月17日（日）にフェスタを開催。
スポーツ：卓球、バドミントン、硬式テニス、
ソフトテニス、サッカー、ダンス
体験の流れ：3つのスポーツ体験が可能
例 13時00分～卓球（町民体育館）
14時20分～テニス（町営テニスコート）
15時40分～サッカー（町営フットサルコート）

参加費用 無料



2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



①地域スポーツ活動の様子（弓道C）



②海洋スポーツプログラム：SUP（サップ）



③大阪体育大学の運動部活動指導認定（2月）



④長与町内企業からの支援・協力（寄附）

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



⑤長与スポーツクラブフェスタ（ミニサッカー）



⑥長与町地域スポーツ活動1周年記念イベント
（石川佳純47都道府県サクスツアーin長崎・長与町開催）



⑦三者連携協定と長与町外企業からの企業版ふるさと納税



⑧指導者（リーダー・サブリーダー）説明会

2. 実証内容と成果

参考資料（取材等による取組の掲載実績）



⑨スポーツ庁の部活動改革ポータルサイト内で取組動画掲載
～生涯スポーツ社会の実現に向けた「地域スポーツ活動」への進化～
(2023年11月7日、スポーツ庁)



⑩文部科学省の広報誌ミラメク -未来の羅針盤内に写真・関連記事掲載
部活動改革～学校から地域へ、より豊かなスポーツ・文化芸術活動への扉～
(2023年秋号、文部科学省)



⑪【大阪体育大学】
長崎県・長与町で運動部活動指導認定プログラムの最終授業



⑫【Sgrum活用事例】休日の活動から地域移行を開始。
行政-学校-地域の密な連携でアイデアを出し合い課題を解決する
長与スポーツクラブ（長崎県）

2. 実証内容と成果

参考資料（アスリートを招へいた記念イベント）

⑬石川佳純 47都道府県サックスツアー-in長崎・長与町(2024.02.29)

- 名称/「長与町地域スポーツ活動1周年記念 石川佳純47都道府県サックスツアー-in長崎・長与町」
- 対象/ 長与町立小学校の小学6年生 約380名
(長与小・長与北小・長与南小・洗切小・高田小)
長与町立中学校の中学1・2年生 約30名(卓球部)
- 日時/令和6年2月29日(木) 13時30分～16時40分
- 会場/長与小学校体育館
- 主催/長崎県長与町教育委員会、NPO長与スポーツクラブ

19県目は、閏年の閏日に、サックスツアー最大人数の約400名との卓球教室を開催しました！



●47都道府県サックスツアーについて

石川佳純さんが、東京オリンピックを含む、過去3回のオリンピック、自身のキャリアを通じて経験した卓球の魅力、スポーツの楽しさを日本中の多くの方に伝えたいとの思いからスタートしているイベント

- 趣旨 長与町は、中学生世代の部活動の地域移行を推進しており、長与町地域スポーツ活動の1周年記念事業として、長与町教育委員会とNPO法人総合型SC長与スポーツクラブの共催事業として開催
- 目的 卓球が盛ん長与町では、部活動の地域移行を進めるきっかけとなった種目が卓球だったことから、石川佳純さんをお招きして、スポーツの楽しさや卓球の魅力を子どもたちに感じてもらい、参加した子どもたちが、将来にわたってスポーツに参加すること、スポーツに親しむことにつなげていくこと
- 対象 長与町立小学校の小学6年生 約380名
長与町立中学校の中学1・2年生 約30名(卓球部)
- 日時 令和6年2月29日(木) 13:30～16:30
- 会場 長与小学校体育館
- 内容 卓球のデモンストレーション、トークショーと質問コーナー
卓球教室(全員)、セレモニー、記念撮影 等

☆企業版ふるさと納税を活用した取組☆



2. 実証内容と成果

参考資料（学校だより一部抜粋等：アスリートを招へいた記念イベントについて）



石川佳純さん、ようこそ長与小へ！

卓球の選手として、ロンドン、リオ、東京と3大会連続でオリンピックメダリストとなられた石川佳純さんが、2月29日（木）に長与小学校に来校されました。昨年5月の現役引退後も様々なメディアで御活躍ですが、現在、全国47都道府県を回られて卓球やスポーツの魅力を伝える「サンクスツアー」を行っておられます。長崎県では長与町に来られることとなり、本校体育館を会場に、町内5校の6年生と卓球部所属の中学生が参加しました。

まずは、先日誕生日を迎えられた石川さんに、参加した児童生徒全員で「Happy Birthday Dear 佳純さん♪」と歌のプレゼントをしました。その後のトークショーでは、御自身の経験を交えながら、各校から寄せられた質問に答えていただきました。

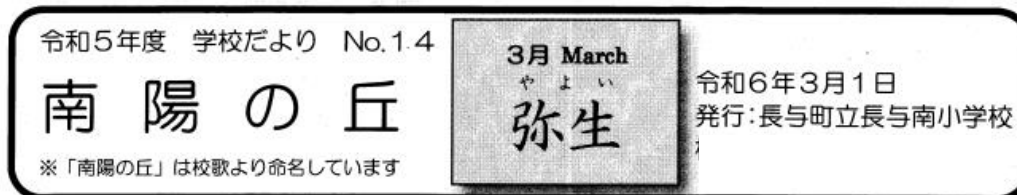
「自分にとってこれだと思えるものに会えるように『チャレンジ』をしてほしい」

「夢や目標をもつことができれば、何で自分はこんなにエネルギーがわいてくるんだと思うことがある。チャレンジをしながら好きなことを見つけてほしい」

等、これからの中学校生活に向けて、たくさんの励みとなる言葉をいただきました。

卓球体験では、6年生全員が石川さんの球を2球ずつ打ち返すという貴重な体験をすることができました。参観していた大人たちが大変羨ましい様子だったのがとても印象的でした。石川さんと記念撮影をしたり、全員がラケットをいただいたりと、卒業前の大変素晴らしい思い出となりました。

⑬長与小学校学校だより（2024年3月7日）



石川佳純サンクスツアーin長崎・長与町

オリンピック卓球女子メダリスト石川佳純さんが、中学校進学を控えた6年生に、夢に向かう元気を届けに来てくださいました。

「チャレンジし続けることが大事。チャレンジするときは不安だけど、まずは飛び込んでみてそこで考える。」
「自分の頑張りや成績が比例しない時はぐっところえて、うまくいかない時も工夫しながら明日を楽しみにする。」
「嬉しいことも苦しいこともあるが、その経験が自分の力になる。全ての経験を味わいながらたくさん学んで自分の力にしてきた。」

「たくさん学んで、自信をもって自分で決めてきた。」

「今日の練習は、やり切ったと思えるくらいやる。」

素敵なお話、盛り上がった卓球体験を通して、夢のような、心が元気になる、学び多い時間が過ごせました。

この会は、長与町教育委員会をはじめ、たくさんのスポンサーの方のお力添えをいただいている開催であると聞いています。「地域の子どもたちは地域で育てる」を実践する長与町です。



⑭長与南小学校学校だより（2024年3月1日）

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和
2年度

- 9月 文部科学省「第4回学校における働き方改革推進本部」にて休日の部活動地域移行が示される。
- 12月 卓球協会と長与スポーツクラブ（長与SC）による中学生卓球教室（週1回）開始。部活動との融合。
- 12月 教職員の兼職兼業に関する項目を長与町小・中学校管理規則に追加
- 2月 地域部活動推進事業の委託について長崎県教育委員会より打診を受ける。
- 3月 長与町内中学校卓球部に研究対象について長与SCより打診（長与中卓球部）

①教育委員会
• 意思決定／条件整備

②教育委員会と総合型クラブ
• 受け皿決定

③教育委員会と学校（校長会）との協議
• 休日の運動部活動廃止の合意形成

令和
3年度

- 7月 長与中卓球部が休日地域部活動（委託研究）開始
- 9月 長与町地域運動部活動推進検討委員会（第1回）開催
- 9月 バasketボールの休日地域部活動検討開始
- 12月 長与町地域運動部活動推進検討委員会（第2回）開催

④指導者確保（町教委と受け皿）
• 教室運営方法や役割分担の協議

⑤保護者説明（受け皿、町教委、学校）
• 教室運営方法や月会費など

令和
4年度

- 6月 町内すべての中学校Basketボール部が休日地域部活動（委託研究）開始
- 6月 長与SC・町教委による種目別顧問・外部指導者対象へ説明会実施
- 12月 スポーツ庁より「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン」発表
- 12月 長与町地域部活動推進検討委員の計6回の会議を経て、「長与町運動部活動地域移行推進計画」策定、第1回地域スポーツ活動指導者説明会開催
- 2月 第2回地域スポーツ活動指導者説明会開催（令和5年度の年間計画作成、各種目のリーダー・サブリーダーの決定）

⑥参加者募集（受け皿）
• 入会届＆入会金＆保険加入

⑦調整（町教委、受け皿）
• 指導者確保

令和
5年度

- 4月 休日のすべての運動部活動を地域スポーツ活動（12種目21活動）へ
- 12月 長与SCが長与スポーツクラブフェスタ開催（親子で参加、複数のスポーツ体験）
- 1月 町教委が生徒・保護者を対象に満足度調査を実施
- 2月 町教委と長与SCの共催で、長与町地域スポーツ活動1周年記念イベントを開催（小学6年生対象に卓球教室を開催）

⑧運営（受け皿）
• 効率の良い受け皿運営

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ[°]（2024年3月時点）

担当部局・受け皿	2023年度 R5年度	2024年度 R6年度	2025年度 R7年度	2026年度 R8年度
各中学校（3校）	平日部活動	平日地域移行検討・準備（可能な種目から）		
長与町教育委員会 学校教育課	<p>実証事業フェーズ</p> <p>実証事業 12種目（休日）</p>	<p>平日検討フェーズ</p> <p>学校教育課から 生涯学習課へ</p>		
長与町教育委員会 生涯学習課 (スポーツ振興班)	<p>委託 事業</p>	<p>実証事業フェーズ</p> <p>財源確保検討 12種目 (休日+平日検討)</p>	<p>12種目 (休日+平日検討)</p>	<p>生涯学習課から 長与スポーツクラブへ</p>
NPO法人総合型SC 長与スポーツクラブ	<p>実証事業</p>	<p>実証事業</p>	<p>支援</p>	<p>自立フェーズ</p> <p>自立</p>
備考	4月から長与町立中学校(3校)の休日の運動部活動は、すべて地域スポーツ活動へ	地域スポーツ活動の主担当が学校教育課から生涯学習課(スポーツ振興班)へ	令和5年度から令和7年度までの改革推進期間終了へ	令和8年度から地域スポーツ活動は受け皿によって自立した運営へ

**【長崎県川棚町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
(運動部活動の地域移行に向けた実証事業)**

自治体名	長崎県川棚町
担当課名	川棚町教育委員会
電話番号	0956-82-2064

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	13,353人	部活動数	16部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
公立中学校生徒数	327人 (令和5年5月1日現在)	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定に向け準備中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

長崎県川棚町（人口13,353人〔R5.3月現在〕）唯一の町立川棚中学校には生徒350人（R5.5.1現在）が在席し、16（運動部14,文化部2）の部が活動している。部活動数（平成元年生徒数752名当時と種目、数とも同じであり、生徒数減少による部活動入部者分散化や、教員数減により複数人の配置が難しく教員の負担が大きく現状のままで健全な部活動持続は困難である。

そのため、令和6年度から2年間を休日の学校部活動の地域移行集中期間とする方針であり、円滑に実施するため体制の整備が急務である。そこで、町内唯一の総合型地域スポーツクラブを母体とした体制をモデルとして、屋外競技について、学校施設を活用して行われる活動に指導者を派遣する体制や、自ら管理する指定管理施設を活用して多様な活動の機会を確保し生徒が選択し参加する体制を構築し、学校部活動を持続可能な地域移行となるよう実践的に実施する。

学校規模調査

	川棚小学校		石木小学校		小串小学校		川棚中学校	
	児童数	教職員数	児童数	教職員数	児童数	教職員数	児童数	教職員数
平成 1	663	31	308	22	337	20	752	37

学校規模調査

	川棚小学校		石木小学校		小串小学校		川棚中学校	
	児童数	教職員数	児童数	教職員数	児童数	教職員数	児童数	教職員数
昭和46								
昭和47								
昭和48								
昭和49								
昭和50								
昭和51								
昭和52								
昭和53								
昭和54								
昭和55								
昭和56								
昭和57								
昭和58								
昭和59								
昭和60								
昭和61								
昭和62								
昭和63								
平成 1	663	31	308	22	337	20	752	37
平成 2	647	30	322	20	327	19	727	36
平成 3	632	29	316	19	353	19	723	36
平成 4	616	28	311	18	344	18	690	36
平成 5	592	29	292	17	337	18	680	37
平成 6	573	29	279	15	341	19	697	36
平成 7	580	30	259	15	332	18	674	38
平成 8	585	28	230	14	330	19	673	38
平成 9	610	30	212	13	296	19	664	36
平成10	577	28	205	13	297	19	653	34
平成11	580	27	208	15	300	18	614	32
平成12	567	28	191	12	293	19	574	30
平成13	550	27	193	14	288	20	565	33
平成14	549	27	195	14	275	20	560	31
平成15	516	28	176	14	270	20	546	34
平成16	533	28	179	14	268	21	518	32
平成17	500	27	163	15	285	20	514	34
平成18	480	27	168	15	296	20	486	34
平成19	479	29	161	15	287	20	478	33
平成20	459	28	147	14	280	19	462	30
平成21	476	29	165	15	258	19	452	30
平成22	480	28	150	16	266	18	476	32
平成23	491	29	159	14	250	18	454	29
平成24	474	26	154	12	232	16	478	30
平成25	486	27	159	13	239	18	430	29
平成26	473	26	156	14	248	16	427	30
平成27	457	27	144	14	249	16	399	28
平成28	431	28	127	15	238	19	420	29
平成29	407	27	124	14	231	19	422	29
平成30	402	28	118	14	235	18	416	30
令和元	378	29	107	14	228	18	402	30
令和2	367	32	28	12	107	15	227	20
令和3	352	28	112	10	107	15	227	20
令和4	327	28	112	10	107	15	227	20
令和5	327	28	112	10	107	15	227	20
令和6	327	28	112	10	107	15	227	20

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

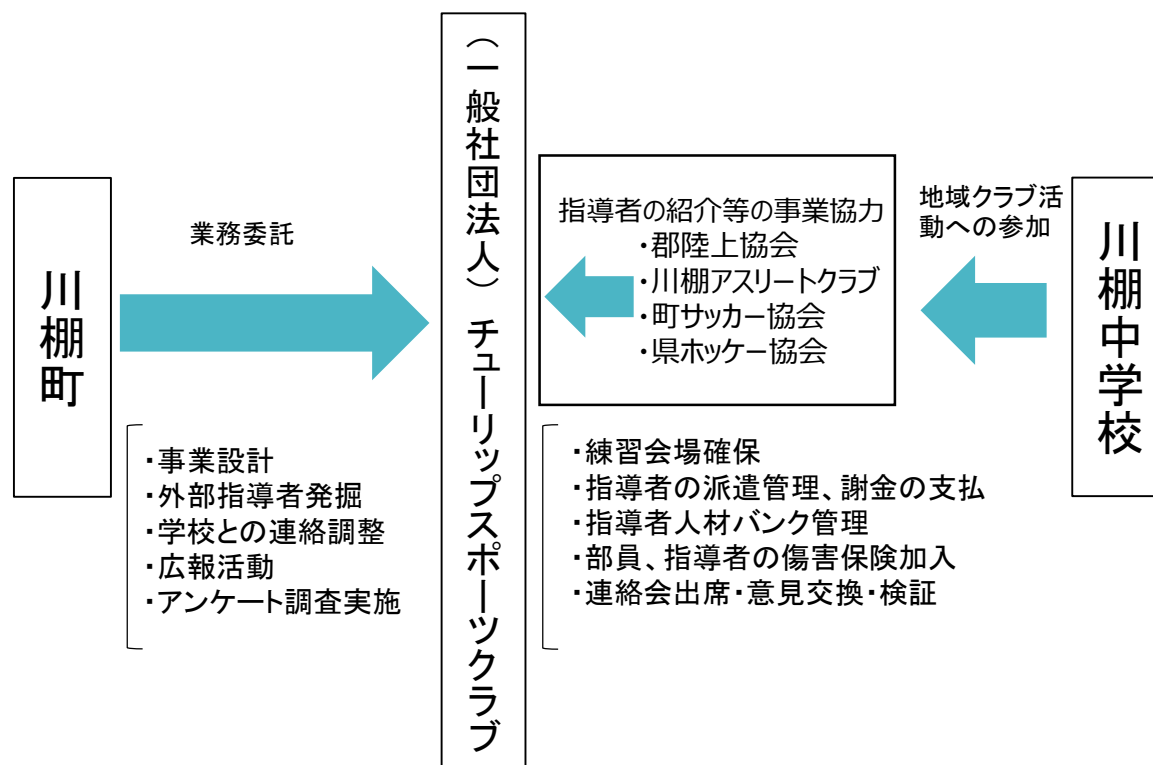
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	陸上、サッカー、女子ソフトボール部、ホッケー
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	4部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	川棚中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	4部活
地域クラブ活動で実施した種目	陸上
運営主体名	川棚町教育委員会
運営類型	市区町村運営型（地域団体・人材活用型）
1か月あたりの平均的な活動回数	陸上：月1回程度
指導者の主な属性	外部指導者
活動場所	川棚中学校
主な移動手段	徒歩、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	徴収しない
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組



取組内容

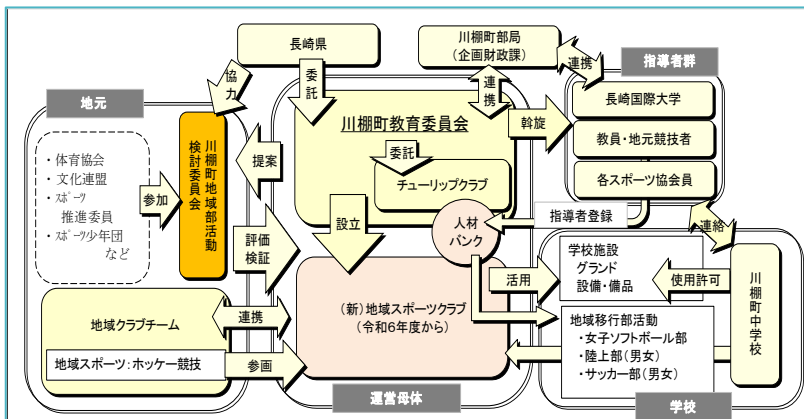
▼取組項目名：ア. 関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

実施主体の運営体制の整備や人材の確保など持続可能な運営ができる組織体制を整備する。
事故等の対応を含む管理責任や賠償責任の主体を明確に共通理解を図る。

取組の成果

学校、保護者、スポーツ団体、指導者、教育委員会の連絡会を開催し移行への理解と競技毎の課題や方向性を共有し各部ごとに取り組み体制整備に向けた素地をつくった。
事故等の対応については、「スポーツ安全保険」に加入し活動した。なお既に加入する部（サッカー、ホッケー）もあった。



特に工夫した事項

検討委員会の提言を受け、地域移行の周知不足を解消するため県地域移行コーディネーターを講師に招聘した講演会を開催した。
(来場者65名)

令和5年度（川棚町） 「中学校部活動の地域移行」講演会



これまで中学校で実施した部活動が、地域クラブへ移行していく動きが、全国的に始まっています。川棚町でも地域移行に向けた検討を行っています。子どもたちの将来を、保護者や文化・スポーツ活動者、学校など、地域が一体となって取り組んでいきたいです。そこで、長崎県教育庁から講師をお招きし、部活動の地域移行をテーマに講演会を開催しますので、ご参加ください。

日時：令和6年1月16日（火）（参加無料）
午後6時30分から

会場：川棚町公会堂

講演：〈演題〉中学校における部活動の地域移行（仮）
〈講師〉長崎県教育庁 体育保健課
部活動地域移行推進リーダー 久田 晴生 氏

対象者：保護者（※報告書2年）、文化・スポーツ活動者、社会教育団体関係者、小学校・中学校教職員 ※興味のある方はどなたでも参加できます。

保護者の皆様へ、講演会後、部活動に対する思いや、地域クラブに移行するの期待や不安などを把握するために「保護者アンケート」を実施しますのでご協力ください。

主催：川棚町教育委員会
(古閑会社) 電話 0956-82-2064 / E-Mail: kyoul@town.kawatana.lg.jp

今後の課題と対応方針

本年度、業務を委託した総合型地域スポーツクラブ「チューリップスポーツクラブ」から、既存の組織を受け皿とするより、新たな地域クラブを設置が望ましいとの成果報告を受けた。令和6年度からは、休日の完全移行に向け、受け皿の整備に注力していくことになるが、継続性をテーマに枠組み（広域）も含め整備を進めていく。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

イ：指導者の質の保証・量の確保

ウ：関係団体・分野との連携強化

エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実

カ：参加費用負担の支援等

キ：学校施設の活用等

ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：イ：指導者の質の保証・量の確保

取組事項

体育・スポーツ協会、競技団体、大学等と連携し指導者を確保する。

取組の成果

各スポーツ協会連携し指導者確保を図った。
 (陸上2名、サッカー1名、ホッケー4名)
 女子ソフトボール部については3名に打診したが未確保、2月28日スポーツ指導者研修会を開催し指導者の質の確保を図った。



**令和5年度
川棚町スポーツ指導者研修会**

○目的 町内スポーツ指導者の資質向上と新たな指導者の確保・育成を目的として実施する。

○日時 令和6年2月28日(水) 18:30~

○対象 町スポーツ少年団指導者、町内スポーツ指導者、今後指導者を目指す方、中学校部活動外部指導者(地域部活動指導者)、保護者等

○定員 30名程度

○場所 中央公民館 講堂

○講師 長崎大学人文社会科学部・教育学系 高橋 浩二 准教授

○研修 ・中学校の部活動地域移行及び部活動ガイドラインについて
 ・「時代に応じたスポーツ指導について」

○スケジュール
 18:00~18:30 受付
 18:30~18:35 開会
 18:35~19:00 研修①
 ◇中学校の部活動地域移行及び部活動ガイドラインについて
 19:00~20:00 研修②
 ◇テーマ「時代に応じたスポーツ指導について」
 20:00~20:15 質疑応答 閉会

問合せ・申込先 (教育委員会社会教育係 白和)
 TEL 82-2064 またはQRコードからお申し込みください

2月22日(水)まで

指導者の名前より
 自分自身とあてでいいのから聞いて、一生学び続ける 山下 崇伸 氏
 指導者は学ぶことをやめた時、教えることもやめなければならない。ロジェ・ルメール 氏

特に工夫した事項

各協会も部活動の現状を把握でき指導者の確保と競技者の確保にも取り組むことができた。(サッカー、ホッケー)
 また、試験的ではあるが、町独自の人材バンクを設置し、指導者の登録を円滑に進めた。さらに、2月28日に開催した研修会を、定例研修とタイアップし開催し、内容の充実や広報活動など効率的に開催した。

川棚町地域クラブ活動等指導者人材バンク(仮) 募集案内

川棚町教育委員会では、中学校における運動部活動の地域移行の一環として、地域で行われる「地域クラブ活動」等の指導に携わっていただく方を募集しています。

1 川棚町地域クラブ活動等指導者人材バンクとは

川棚中学校の部活動の地域移行に伴い、「地域クラブ活動指導者」として登録していただいた人材を、川棚中学校や地域クラブ等に情報提供するものです。

募集する人材

地域クラブ活動指導者

- ・社会教育の一環に位置づけられる「地域クラブ活動」の指導を行います。
- ・中学生への指導が基本ですが、合同で他の世代へも指導を行う場合があります。
- ・勤務日、報酬等の勤務条件は、活動の実施主体となる各運営団体の規定に基づきます。

さらに、2月28日に開催した研修会を、定例研修とタイアップし開催し、内容の充実や広報活動など効率的に開催した。

今後の課題と対応方針

「川棚町部活動地域移行ガイドライン(仮称)」の策定後、試験的に設置する人材バンクを正式に運用することとしている。現在、登録者についても町ガイドラインを説明し、承諾者を指導者として派遣する。指導者登録の流れを整備し指導者の確保図り、本年度同様に研修会の定例的な開催を目指す。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

大学、競技団体と指導者の派遣や指定管理施設の利用について連携する。

取組の成果

長崎国際大学や各競技団体と指導者の派遣について意見交換し連携体制を構築する。

通常の練習は川棚中学校で行い、部員確保のための体験会は指定管理施設で優先的に利用することができた。

町中央公園体育館（指定管理者施設）で実施したホッケー体験会



特に工夫した事項

長崎県担当職員と連携し、長崎国際大学と意見交換が実現することができた。
意見交換には、学科長 脇野教授はじめ7名の関係者が出席され、大学側の意向や考え方が把握でき、今後に期待できる内容が確認できた。
競技団体とは、東彼杵郡陸上協会と町サッカー協会に指導者を派遣について連携して取り組み、陸上は2名、サッカー5名の紹介があり、内、本年度は、陸上部2名、サッカー部1名の指導者の登録に繋がった。

今後の課題と対応方針

長崎国際大学と川棚町は地域課題に連携して取り組む包括協定を締結している。また、本町から車で15分の立地にあり、人の往来が比較的容易である優位性を活かし、今後も連携関係を継続する。
競技団体との連携について、他の競技団体とも連携し指導者の確保を図る。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：オ：内容の充実

取組事項	複数の競技が実施できるよう地域スポーツ活動を実施する。
------	-----------------------------

取組の成果	ホッケー競技について、選手登録の制約が中体連組織と別であるためホッケークラブと中学校部活動に入部しても大会の出場機会に影響がないため、兼部の実現性が高いことが認識できた。
-------	---

特に工夫した事項	<p>実証事業実施部活及びクラブにおいて実施した連絡会で上記のことが確認でき、その後、ホッケークラブ入部者にアンケート調査を実施し兼部について個人の把握に努めた。</p>		<p>4. 川棚中学校にある部活動とホッケークラブと両方入部できるとしたらどうしますか。</p> <p><input type="radio"/> 入部する 5人。 たくさん運動したいから。 もっとホッケーをしたい。 ホッケーについてもっと学びたい。 最初は難しいけど後から楽しくなるから。</p> <p><input type="radio"/> 入部しない 1人。 ホッケーしかしたくないから。</p> <p><input type="radio"/> 考えてから決めたい 4人。 両立が大変そうだから。</p>
----------	---	--	--

今後の課題と対応方針	生徒アンケートの結果 10名中5名が兼部の意向を示している。このことを踏まえ、複数の競技が実施できるようクラブ・学校と合意形成を図り生徒が選択できる環境整備を図ることとし、また、本件をリーディングケースとし全体への波及を図る。
------------	---

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
 ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

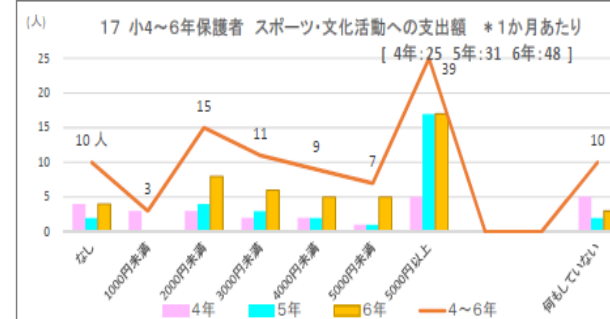
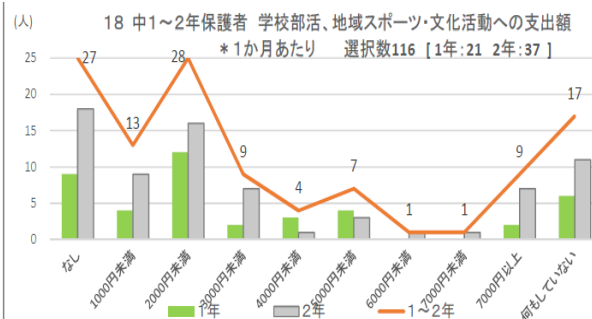
▼取組項目名：カ：参加費用負担の支援等

取組事項

地域スポーツクラブ活動に係る収支を踏まえた適切な設定・徴収方法の検討や保護者負担経費の調査を行う。

取組の成果

アンケート調査を実施し保護者の負担する金額の現状が把握できた。
 小学校は月1人に5,000円以上負担している家庭が多いが、中学校では、負担なし～2,000円台が60%を占めた。



特に工夫した事項

学校ICTを活用し、アンケート調査を児童（4～6年）、生徒（1～2年）、アンケート対象児童生徒保護者に実施した。初回であり、地域移行の事業周知を兼ね実施した。

今後の課題と対応方針

参加者の費用負担について現状把握のためアンケート調査を継続して実施し、適切な料金設定を図り、生活困窮者支援について検証している。

2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

取組内容

▼取組項目名：キ：学校施設の活用等

取組事項

学校施設・設備・備品を使用して地域スポーツクラブ活動を実施する際の利用ルールを策定する。

取組の成果

屋外競技については、特別の配慮なく学校施設を使用することができた。



特に工夫した事項

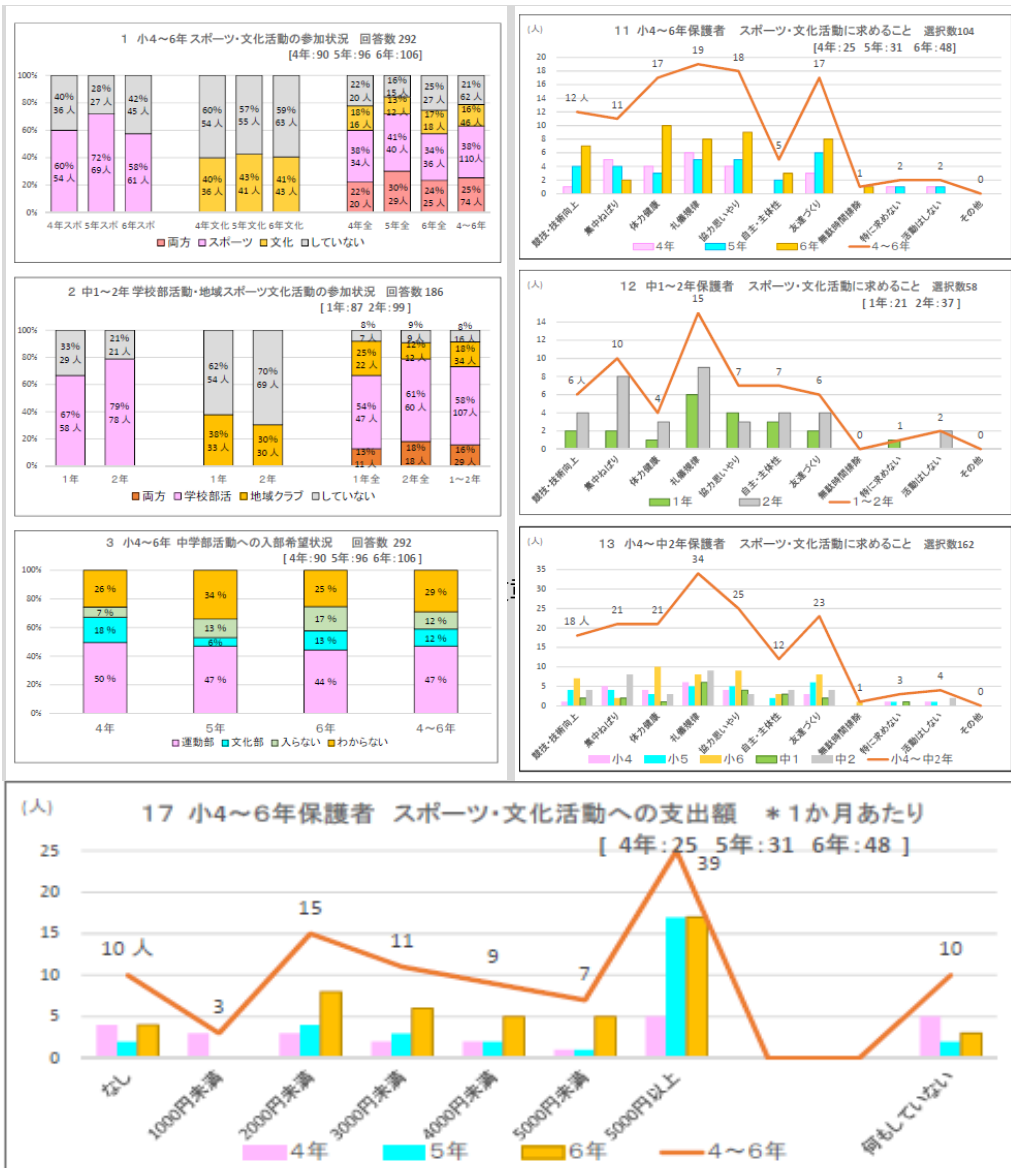
地域移行した活動も、部で予定する練習スケジュールに合わせて実施し他の部活動と競合することなく実施できた。
体験会については、日曜日開催や他の施設を使用し学校施設を円滑に利用することができた。

今後の課題と対応方針

活動の主体が地域に移行するが、練習場所は中学校施設が主になる。また、外部指導者の意向を踏まえて練習時間を設定する必要があるが、他の部活動と競合することがないように、施設の利用についてルール化を図る。

2. 実証内容と成果

参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）



【児童生徒・保護者アンケート】

★★ 地域関係者の皆様へ ★★ 令和6年2月28日

中学校部活動の地域移行が始まります

いま、中学校の「学校部活動」を「地域部活動（地域クラブ活動）」へ移行する動きが、全国的に始まりました。本町でも、地域移行に向けた検討を行うために「川棚町地域部活動検討委員会」を設置し、本格的な審議を進めていこうとしています。

そこで、子どもたちの心身の健全な育成を見据えて、これからのスポーツ・文化活動の在り方を皆様と共に検討していきたいと考えております。

今回は、学校部活動が地域部活動（地域クラブ活動）へ移行するとは、そもそもどのようなことなのか、また何が変わるのか等について基本的なことをお伝えします。

【事務局】 入野・山田
川棚町教育委員会
電話 82-2064

1 なぜ「地域部活動（地域クラブ活動）」への移行なのか？

いま、学校や地域を取り巻く状況が大きく変わってきており、生徒が充実した部活動環境の中で参加することが難しくなっています。

- (1) 中学生徒数の減少が加速 → ・部員が減ることで、休止状態の部活動も出てきている。
- (2) 教職員数も減少 → ・競技経験のない教師が指導する部活も多くなっている。
→ ・そのため指導の質の低下が懸念される。
- (3) 教師の超過勤務時間が増加 → ・様々な事情から、教師が十分に指導できない状況が出ている。

2 「学校部活動」と「地域部活動（地域クラブ活動）」の違いは？

現在、川棚中学校が実施している「学校部活動」には、運動部14・文化部2がありますが、これらはすべて学校の教育活動です。学校部活動が地域部活動（地域クラブ活動）に移行したら、何がかわるのでしょうか。その主な違いを一覧表に示します。

項目	学校部活動	地域部活動（地域クラブ活動）
管理責任者	・校長	・部活動を運営する団体等の代表者
指導者	・顧問教師 *技術指導は「外部指導者」も可	・地域指導者 *原則、教師は指導にかかわらない
大会等の引率	・顧問教師 *「外部指導者」のみでは不可	・地域指導者による引率は可
大会等の参加	・学校部活動として参加	・地域クラブの各種大会参加については、県中学校体育連盟・文化連盟等でルールの見直しが行われている。

【広報物】

2. 実証内容と成果

参考資料 (活動写真)



日時：12月23日(土)
7:00~8:30
場所：川棚中学校
参加：9名
指導者：守田、田中

【陸上部 (通常練習)】



日時：3月2日(土)
7:00~8:30
場所：川棚中学校
参加：8名
指導者：守田、田中

【陸上部 (通常練習)】



日時：2月25日(日)
13:00~15:00
場所：川棚中学校
参加：小学生3名
中学生3名
指導者：野中
協力：町サッカー協会

【サッカー部 (部活動体験会)】



日時：3月2日(土) 13:00~15:00
場所：中央公園体育館
参加：小学校24名、中学校9名
指導者：浪花、中野、小峰

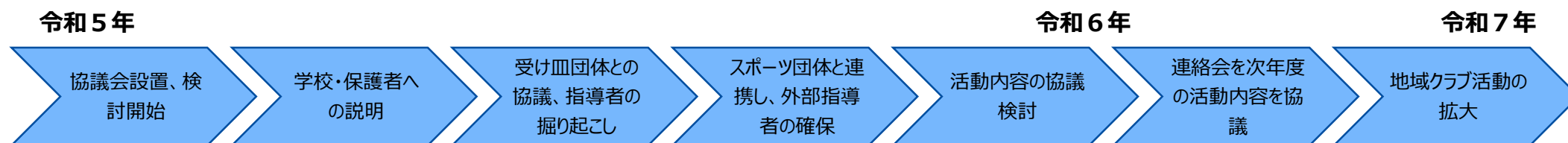
【ホッケークラブ活動】



日時：2月24日(土) 9:00~11:00
場所：川棚高校
参加：9名(男3女3)
指導者：浜田、野中

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



●ステークホルダー：
・学校（管理職）
・保護者（PTA代表）

●経過：
全体説明会の後、個別協議を実施し地域移行に係る事業実施について理解を得る。

●実施にあたって生じた課題：
生徒指導や受け皿（候補）団体に抵抗感が強く協議が難航し、事業の再検討が求められた。

●実施内容、工夫した点 等：
学校、部活動振興会（PTA組織）、教育委員会の3者による検討チームを組織し、受け皿団体の検討や事業の進め方など予め協議することし、計画する事業の実施に理解を得ることができた。

●ステークホルダー：
・学校（部活動顧問）
・保護者（保護者会代表等）

●経過：
部の現状を把握し、保護者の意向を確認するため、部毎にヒアリングを実施し事業の円滑化を図る。

●実施にあたって生じた課題：
各部の事情は様々で確認作業に時間を要し、部内でも意見が分かれるケースがあった。

●実施内容、工夫した点 等：
時間を掛け、ヒアリングを行い、子ども達が活動する環境を継続するための趣旨であることを念頭に、一定の理解を得るまでは事業を実施しないこととした。

●ステークホルダー：
・外部指導者

●経過
外部指導者を確保するため関係競技のスポーツ協会と連携し取り組む。

●実施にあたって生じた課題
指導者の掘り起こしは進展するが責任が増え負担が増えることや、保護者の反応や部の現状（少人数）から指導者登録が難航した。

●実施内容、工夫した点 等
受け皿の整備やスポーツ保険への加入を勧めることや、活動の頻度（日数）を保護者と協議し決め、学校（顧問）、保護者、指導者との合意形成に時間を掛け対応した。

●ステークホルダー：
・生徒
・新入学生（小学生）

●経過
保護者、協会とのヒアリングにおいて、部継続のためは、部員確保が必要になるとの認識のもと、小学生を対象にした体験活動に取り組む。

●実施にあたって生じた課題
部毎に部活動体験会を企画するが、周知等、準備期間が確保できず参加者の確保が課題となった。

●実施内容、工夫した点 等
連絡会（教員、保護者、指導者、教育委員会、協会）を開催し実施内容を検討し、協会を通じジュニアチームへの声かけや、小学校と連携したチラシの配布、指定管理施設（中央公園体育館）使用競技など各団体が分担し取組み、各部の体験会の円滑な実施を図った。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

川棚町における中学校部活動の地域移行に向けたイメージマップ

川棚町教育委員会

【目標】

令和6～7年度の2年間で、休日（土・日）における学校部活動の地域移行を目指す。

- 1 令和5年度中に、本町の体育協会・文化協会・スポーツクラブ・学校教職員・保護者等の関係者で構成する「川棚町地域部活動検討委員会」を設置し、部活動地域移行に向けた検討を定期的に進める。
- 2 令和6～7年度の2年間で、休日における部活動の地域移行を具体的に進める。
- 3 平日における部活動の地域移行については、今後の国や県の動向を踏まえ、令和8年度以降に具体的な検討を行う。

～ 令和5年度	令和6～7年度	令和8～12年度（4年間）	令和13年度～
★ スポーツ・文化活動の現状 ★	★ 休日部活動の地域移行 ★	★ 平日部活動の地域移行 ★	★ 地域部活動の充実 ★

学校部活動	川棚中学校	顧問
	外部指導者	

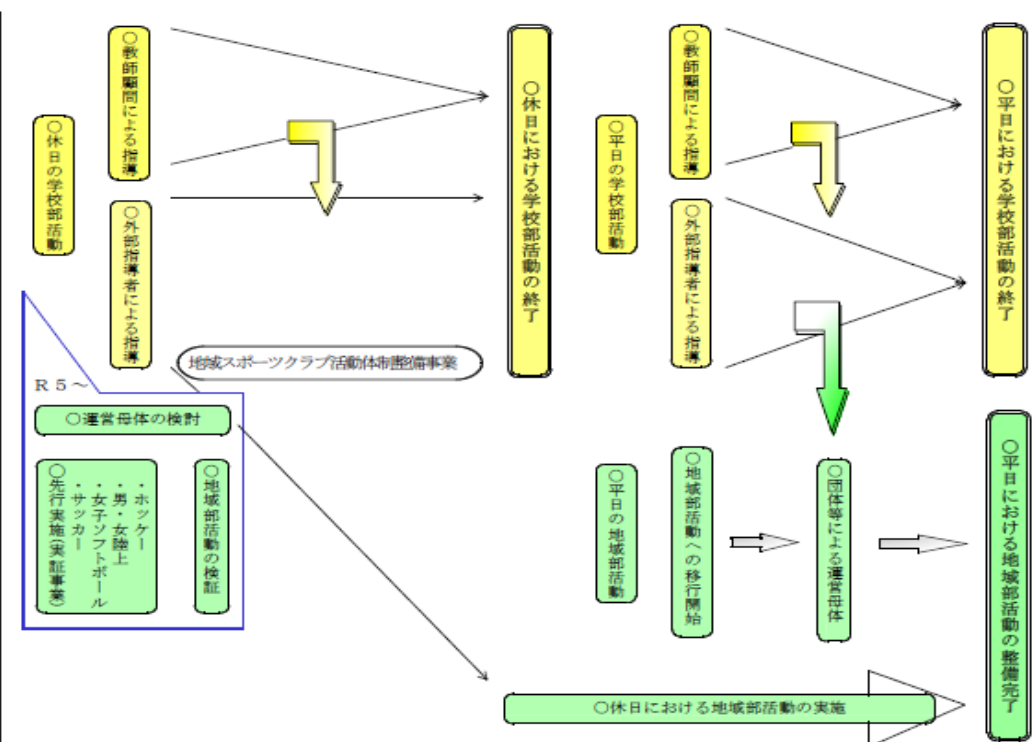
①ソフトテニス ☆(男12)
②陸上 (男4)
(女6)
③卓球 (男2)
(女6)
④バレーボール (男7)
(女1)
⑤美術 (女18)

①ソフトテニス ☆(女11)
②バスケットボール ☆(男13)
③バスケットボール ☆(女7)
④ソフトボール (女5)
⑤軟式野球 ☆(男3)
⑥バレーボール (男13)
⑦サッカー (男2・女2)
⑧剣道 ☆(男0・女6)
⑨柔道 ☆(男1・女2)
⑩吹奏楽 ☆(男0・女15)

*○数字は、競技経験者が指導
*☆は、休日も外部指導者が指導

地域スポーツ・文化クラブ	総合型地域スポーツクラブ	・チュアリップスポーツクラブ
	社会体育等	1 小串小ソフトボールクラブ 2 川棚SC(サッカー) 3 小串サッカークラブ 4 川棚小JVC(バレーボール女子) 5 石木JVC(バレーボール女子) 6 川棚ビーキーズ(軟式野球) 7 小串ジュニアバレーボールクラブ 8 川棚ジュニアバレーボールクラブ 9 川棚少年剣友会(剣道) 10 川棚ジュニアバドミントンクラブ 11 ビバーチェ(バドミントン) 12 長崎KSC(ソフトボール) 13 川棚ジュニアソフトボールクラブ 14 川棚ジュニアソフトテニスクラブ 15 川棚ジュニアホッケークラブ 16 少林寺拳法川棚スポーツ少年団 17 川棚少年合唱団 18 瑞紀琉(舞踊)
	スポーツ・文化団体	*○数字はスポーツ少年

一般 ○町登録サークル・団体(40)



目指す姿

- 1 多世代・他地域にわたるスポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる地域環境を構築する。
- 2 中学校の働き方改革をとおして、学力向上をはじめとする学校教育活動のさらなる充実を図る。
- 3 少子化を迎えている中で、多様性・共生社会が尊重された活力のある地域づくりを目指す。

単独・幾何地域
文化・スポーツクラブ

社会体育・文化活動
団体・少年団等

地域・民間の
クラブ・サークル

令和6～7年度（2年間）	令和8～12年度（4年間）	令和13年度～
<ul style="list-style-type: none"> ○地域移行イメージマップ作成 ○保護者、地域への周知・啓発の推進 ○児童生徒・保護者、教職員の意識調査、把握・分析 ○教職員の兼職・兼業規定の整備、教職員への周知・啓発 ○部活動数の適正化・精選 ○指導者人材バンクの整備、人材の確保 ○地域部活動運営財源・会費等の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動指導員の確保・任用 ○受け皿となる運営主体の拡充・発展 ○指導者育成研修会の整備・充実 ○人材バンクの本格的運用 ○コーディネーターの設置による地域移行の促進 ○部活動数の適正化・精選 ○各種連盟、団体等との連携・協力の推進 ○平日、休日の一貫性の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域スポーツ・文化クラブ等の連携・交流の促進 ○生涯スポーツ・文化活動への拡大 ○他町との交流活動推進 ○スポーツ・文化施設・設備の整備促進 ○兼職・兼業の適正化と充実

**【長崎県波佐見町】
令和5年度地域スポーツクラブ活動体制整備事業
（運動部活動の地域移行に向けた実証事業）**

自治体名	長崎県波佐見町
担当課名	波佐見町教育委員会 教育総務班
電話番号	0956-80-6667

1. 自治体の基本情報

基本情報

人口	14,164人	部活動数	16部活
公立中学校数	1校	市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	波佐見町地域部活動推進検討会
公立中学校生徒数	385人	市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済み（令和5年10月）

地域連携・地域移行における波佐見町の現状・課題

○全国的な人口減少は、ここ波佐見町においても例外ではなく、年々減少の一途をたどっているのが現状である。生徒数約400名の波佐見中学校の部活動は活発に行われており、16部活動に約9割の生徒が参加している。全国大会に複数回出場する野球部は今年度はベスト8まで勝ち上がる実績を残した。また、サッカー部は県大会に出場、好成績をあげることができた。

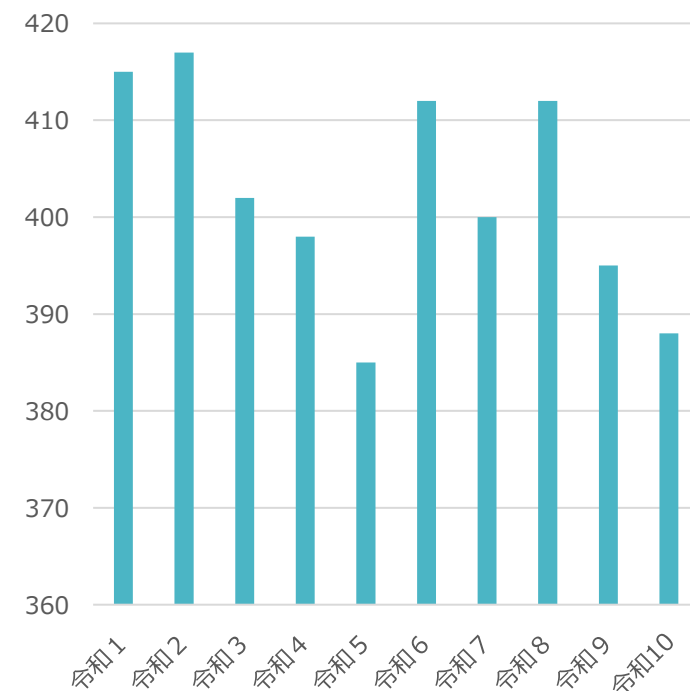
しかし、近隣の中学校では、部の存続が厳しいことで、やりたい活動に参加できない悩みも抱えている。これらの現状から近い将来波佐見中学校においても、生徒数の減少や指導者の不足により活動が制限されてしまう恐れは否めない。

○波佐見町はジュニアのスポーツ活動が盛んで、少年野球部の活躍が目覚ましい。町内には4つのクラブチームで多くの児童が活躍し、全国大会にも駒を進めているチームもある。小学校から中学校へ進学しても、継続して活動する生徒が多く、連続性による技術の向上が強さの秘訣でもある。

○波佐見中学校サッカークラブとジュニアサッカークラブ（デサフィーゴ）が連携して活動するのはこの連続性によりスムーズな地域クラブ化と、活動の幅を期待するものである。現に、ジュニアサッカークラブで活動した生徒が多く中学校のサッカークラブに入部し活躍しているため、連携は難しいことではない。実証事業では、指導者の乗り入れを大きな目的として取組を進めてきた。指導者が小・中の壁を越えて協同して指導に当たることで効果や課題を把握し今後の活動につなげていきたい。

○一方で、東彼杵郡には3つの町があり、それぞれ1つの中学校で部活動に多くの生徒が参加している。今後は3つの中学校区での連携も視野に入れて、どの生徒にもやりたい活動ができる体制を整えていかなければならない。

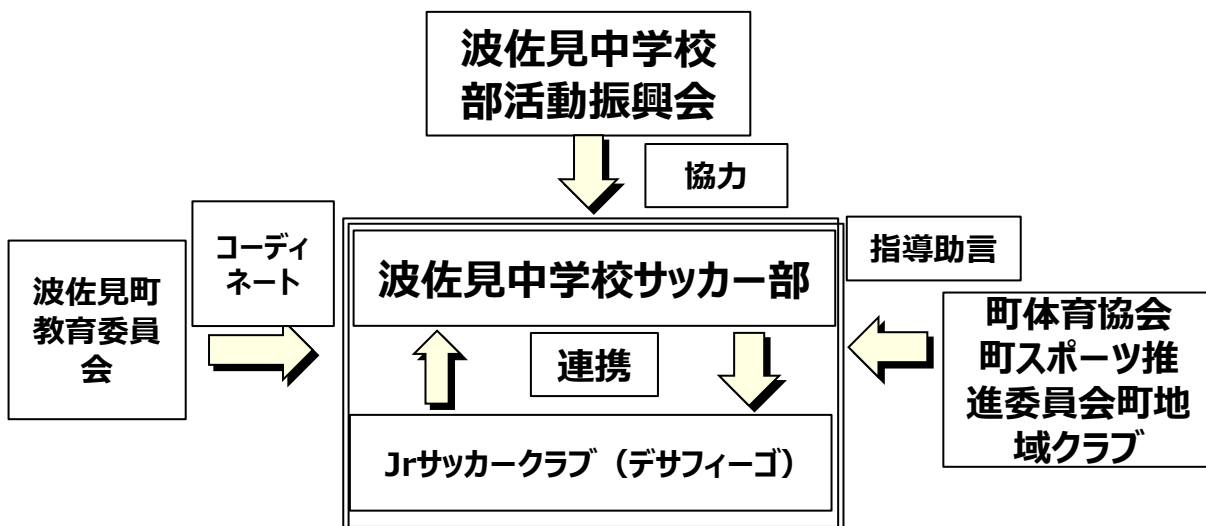
波佐見中学校の生徒数推移



2. 実証内容と成果

運営体制・役割

▼運営体制図（波佐見町における推進体制図）



▼行政組織内での役割分担

● 教育委員会（教育総務班）

波佐見中学校サッカー部とJrサッカークラブ（スポーツ少年団）との連携を進めるために、全体的なコーディネートを行う。その際、各チームの顧問や監督と連絡調整を行い、スムーズな運営ができるように働きかける。

小学生1年生～中学3年生までの地域クラブ化を目指し、練習や試合等に合同で参加したり、見学したりする中で、技術の向上や連帯感を養う。

年間の事業スケジュール

- 令和5年1月19日「波佐見町地域部活動推進検討委員会」発足
- 令和5年4月26日実証事業開始
- 令和5年4月28日波佐見中学校部活動振興会総会にて、実証事業周知
- 令和5年6月 8日サッカー部保護者会にて、実証事業詳細を連絡・協議
- 令和5年9月27日「第2回波佐見町地域部活動推進検討委員会」を開催し、実証事業の進捗状況報告及び現状と課題の把握
- 令和5年10月15日アンケート実施（サッカー部保護者、小5～中2の児童生徒、中学校教職員）
- 令和5年10月 波佐見町地域部活動方針及び推進計画策定
- 令和6年 1月18日外部指導者連絡会を開催し、部活動の地域化及び実証事業について連絡

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の運営実績

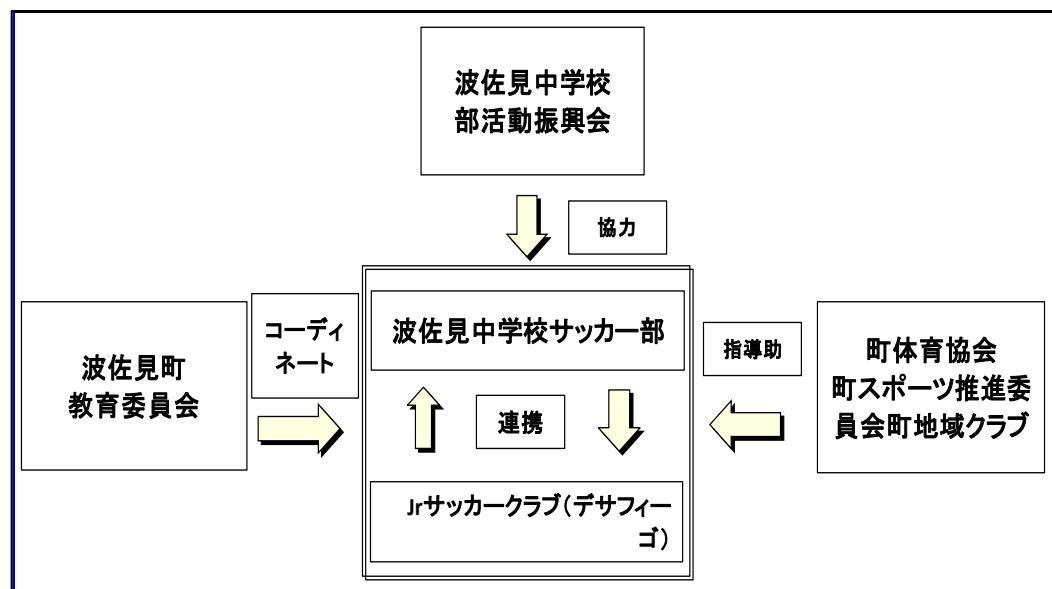
拠点校数	1校	地域クラブ活動に取り組んだ種目	サッカー部
地域クラブ活動に取り組んだ部活動数	1部活		

主な取組例

▼活動概要

拠点校名	波佐見中学校
地域クラブ活動に移行した部活動数	1部活
地域クラブ活動で実施した種目	サッカー
運営主体名	デサ・フィーゴ波佐見
運営類型	地域団体・人材活用型
1か月あたりの平均的な活動回数	サッカー：月4回程度
指導者の主な属性	波佐見中学校
活動場所	波佐見中学校
主な移動手段	徒歩・保護者送迎
1人あたりの参加会費等(年額)	サッカー：12,000円
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

▼運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



2. 実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
 イ：指導者の質の保証・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
 エ：面的・広域的な取り組み

オ：内容の充実
 カ：参加費用負担の支援等
 キ：学校施設の活用等
 ク：その他の取組



取組内容

▼取組項目名：ウ：関係団体・分野との連携強化

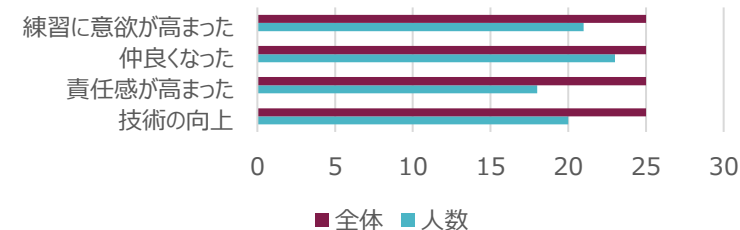
取組事項

- ・休日の地域クラブ化を目指し、中学校サッカー部とスポーツ少年団のサッカークラブとの一体化を進める。互いの指導者の乗り入れにより、クラブチームとしての一体化を目指す。活動を共にする中学生と小学生も互いに切磋琢磨し、活動の幅を広げたり、技術の向上を進める。
- ・子供だけではなく、保護者の交流の拡充も見据え、可能な限り互いの活動をお知らせしたり、試合の案内をすることで、クラブ全体としての一体化につなげる。

取組の成果

- ・参加した中学生25人を対象としたアンケートの結果、回答者の72%が「責任感が高まった」、また、「メンバーと仲良くなった」と回答者の92%が一体感と、連帯感をとらえている。
- ・指導者の乗り入れで指導の幅が広がるとともに、指導の質の向上が図れた。特に、小学生の指導の在り方に参考になったとの感想を持っている。
- ・小学生の保護者が中学生の練習のサポートをする機会も見られるようになった。地域クラブの一体的な活動によるものである。

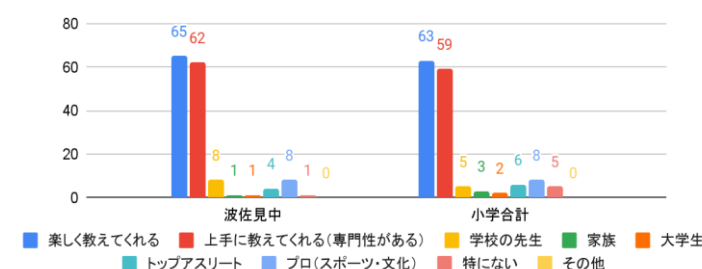
合同練習でよかった面



特に工夫した事項

- ・小学校保護者151名、中学校保護者150名から回答を得たアンケートでは、小学校、中学校共に「楽しく教えてくれる」が最も多く、「専門的に教えてくれる」ことを望んでいる。楽しく活動できるとともに、技術の向上を求めている。
- ・そのため、指導の在り方についても、保護者の意向を意識した活動を実践してきた。子供も保護者もおおむね満足した意見が寄せられている。

7 スポーツや文化活動を教えてくれる指導者に求めることは何ですか？(複数回答可)



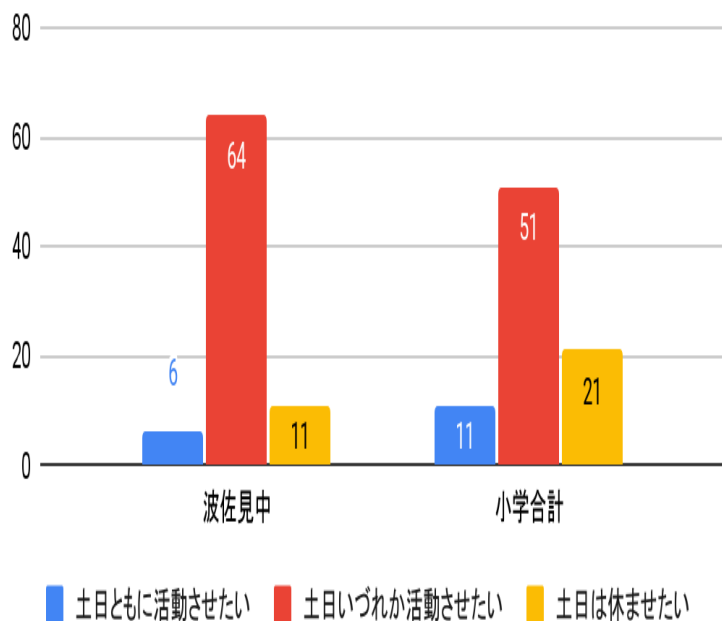
今後の課題と対応方針

・子供や保護者のニーズにである、専門性的な指導と楽しい活動を組み入れた地域クラブ化により、今後もさらに研究を重ね推進していかなければならない。一方で、指導者の確保が心配される場所である。サッカー部を例にとっても現在の指導者(学校職員)が転勤となった場合、指導者が確保できるとは限らない。現在は、地域の人材の掘り起こしを急いでいるところである。

2. 実証内容と成果

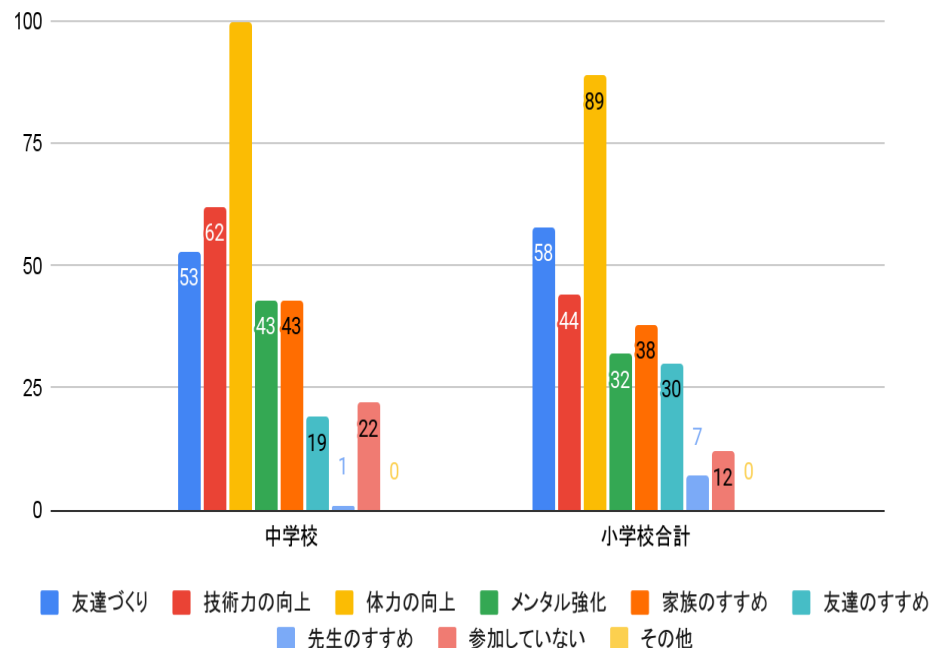
参考資料（アンケート結果、広報物、協議会等で使用した資料の抜粋等）

8 休日(土日)の活動について



【保護者：休日の活動の参加について】

5 スポーツや文化活動はどんな^なを目的に(あるいはきっかけ)に参加していますか？(複数回答可)



【児童・生徒：活動の目的】

・小・中学校の児童生徒及び保護者の「部活動の地域移行アンケート」により、保護者は休日の活動について活動をさせたいと考えており、部活動が休日に地域活動となった場合も、これまで同様に参加する生徒は多いと思われる。

・活動の目的としては、最も多かったのは小・中ともに「体力の向上」である。また、「友達づくり」を目的としている児童・生徒も多いことから、友達と楽しみながらスポーツや文化活動を行いたいと考えている。

・地域移行となった場合も、受け皿の体制を整えていくことで、スポーツや文化活動を楽しむとともに、技術の向上を目指した活動に取り組んでいくことと思われる。

2. 実証内容と成果

参考資料（活動写真）



【小・中ミックスチームでミーティング】



【小・中ミックスチームでミーティング】



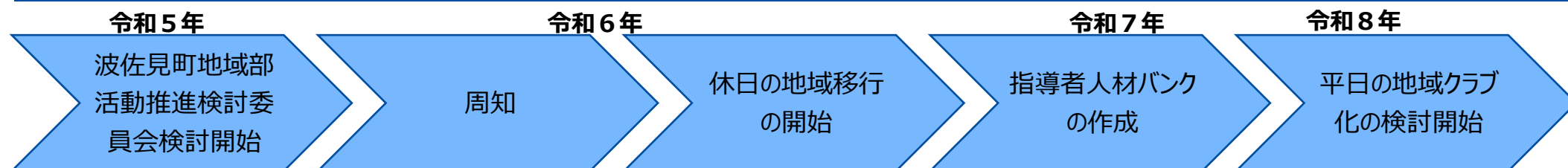
【合同練習 全員集合】



【合同練習風景】

2. 実証内容と成果

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス



○経過
R5.1.19
波佐見町地域部活動推進検討委員会を設置

R5.9.27
第2回波佐見町地域部活動推進検討委員会の開催

○実施内容
国や県の動向を示し、波佐見町の現状や今後の動きについて意見交換

○課題
将来的には完全に地域クラブ化となることを確認したが、指導者の確保が最大の課題として確認した。

○経過
R5.6.8
波佐見中学校サッカー部保護者へ実証事業を含めた地域移行について説明、意見交換

R6.1.18
外部指導者連絡会にて、意見交換

○実施内容
保護者は情報として部活動の地域移行については知っているものの、実感はないようである。外部指導者には日頃の指導の感謝の言葉と今後の動きについて意見交換した。

○課題
外部指導者は今後も協力していただくことで確認したが、指導者の数が不足することの心配がある。

○計画
R6.4.26
波佐見中学校の全保護者を対象とした地域移行の説明会開催

R6年度2学期から、教職員による休日の部活動の指導を外し、地域移行を目指す。

教職員の「兼職兼業」の申請についての周知と実施

○計画
指導者の人材を広く求め、人材バンクの作成し、地域の力で子供たちの育成を目指す。

平日の地域移行についての課題は「人材」と「財源」であるため、その課題を解決改善していくための協議を進めていく。

3. 今後の方向性

地域連携・地域移行の推進に向けた今後のロードマップ

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
波佐見町	波佐見町部活動地域移行検討委員会			
	保護者・指導者への周知・協力			
		地域住民・企業への周知		
				平日の地域移行検討開始
			休日の地域移行開始 (R6.2学期から教職員を指導から外す) 「兼職兼業」申請開始	
外部との連携	サッカー部での実証事業	郡内地域移行検討		

平日の地域移行の実施